

令和6年度 施策評価シート

基本目標	Ⅳ	安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	410	災害や犯罪から身を守る、安全・安心なまちとしくみをつくる
施策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める
施策の目標	区民、住民防災組織、地域団体、企業等の多様な地域の主体が、自発的な意思と相互の連携により、個々の事情と地域の特性をとらえた防災対策を講じ、さまざまな災害から身を守る防災行動力を身につけ、安全・安心なまちになっています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指 標 名	「家庭で災害時の備えができている」区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	61.0%	62.0%	63.0%	64.0%	65.0%	66.0%	67.0%	68.0%	69.0%	70.0%
実績	52.2%	-	-	-	54.9%	-	-	-	-	-
指 標 名	住民防災組織等を担う防災関係団体人数									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	6,700人	6,900人	7,100人	7,300人	7,500人	7,700人	7,900人	8,100人	8,300人	8,500人
実績	6,542人	6,735人	6,956人	7,067人	7,274人	7,535人	7,517人	7,397人	-	-

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
「家庭で災害時の備えができている」区民の割合（区民アンケート調査）及び住民防災組織等を担う防災関係機関人数（住民防災組織の人数、要配慮者サポート隊員数、消防団員数、区民消火隊員数、防災リーダー認定者数、ジュニアレスキュー隊員数、復興支援組織会員数及び駅前滞留者協議会会員数及び防災士ネットワーク協議会会員数）はそれぞれ自助及び共助の推進状況を図る上で有効な成果指標と考える。一方、働き方改革、行財政改革等の視点から、防災対策においても人・物・金の効率的活用が不可欠であり、時代を反映した事業の取捨選択及び事業内容の改善を図る必要がある。	R3	363,574
	R4	232,231
	R5	261,630

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	自助はもとより、共助の担い手を育成することは防災対策において重要な施策であり、成果を達成するためにも不断の改善が必要である。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
住民意識調査でも「区の施策のうち特に力をいれてほしいと思うもの」として防災対策が1位であり、区民の期待は高い。また、木造住宅密集地域が集積している等大規模災害に関する危険性が高い地域性もあり、区として防災対策の重要性は高い。	
【今後の具体的な方針】	
「各家庭での災害への備え」や「防災関係団体人数」等、自助・共助の充実につながる施策を推進するとともに、「公助」として資源を国、都、防災関係機関等との総合調整機能強化等「公助」でなければならない対策に振り向け、自助、共助及び公助の適正バランスを考えていく必要がある。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳 出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳 出 総 額 (千円)	目的に対する指標	直近の評価内容
					年度目標値	評価結果
					年度実績値	評価対象年度
1	防災会議等運営事務	157	5,107	5,264	1回	現状維持
					1回	令和5年度
2	危機管理事業	2,787	8,512	11,299	2,400件	現状維持
					2,137件	令和5年度
3	消防団の運営	22,963	5,107	28,070	—	改善・見直しのうえ継続
					17回	令和5年度
4	応急対策備蓄物資の整備・備蓄	65,403	6,810	72,213	55%	現状維持
					62.5%	令和5年度
5	防災行政無線整備・運用・維持管理事務	46,998	5,107	52,105	—	現状維持
					135件	令和5年度
6	地域防災活動拠点会議事務	3,496	11,065	14,561	38箇所	現状維持
					38箇所	令和5年度
7	住民防災組織活動及び装備強化	40,081	8,512	48,593	171隊	改善・見直しのうえ継続
					148隊	令和5年度
8	要配慮者対策事業	14,497	6,810	21,307	860団体	改善・見直しのうえ継続
					252団体	令和5年度
9	大規模水害対策の推進	3,285	6,810	10,095	38団体	現状維持
					32団体	令和5年度
10	災害医療体制の整備	833	3,405	4,238	300人	改善・見直しのうえ継続
					111人	令和5年度
11	防災思想の啓発	5,387	3,405	8,792	10%	改善・見直しのうえ継続
					13%	令和5年度
12	防災士育成事業	1,539	10,214	11,753	160人	現状維持
					75人	令和5年度
13	総合防災訓練	14,115	15,321	29,436	5,000人	改善・見直しのうえ継続
					3,243人	令和5年度
14	区民消火隊	12,806	4,256	17,062	330回	改善・見直しのうえ継続
					518回	令和5年度
15	学校防災活動推進事務	212	2,554	2,766	8隊	現状維持
					7隊	令和5年度

16	災害復興対策事業事務	611	2,554	3,165	13回	現状維持
					12回	令和5年度
17	帰宅困難者対策	792	2,554	3,346	—	改善・見直しのうえ継続
					41施設	令和5年度
18	緊急地震速報の導入	7,743	1,702	9,445	0人	改善・見直しのうえ継続
					0人	令和5年度
19	家具転倒防止器具取付け事業	573	851	1,424	300件	統合や縮小を検討
					36件	令和5年度
20	防災フェア事務	285	4,256	4,541	9,000人	改善・見直しのうえ継続
					—	令和5年度
21	公共用消火器等の維持管理	7,527	2,554	10,081	—	改善・見直しのうえ継続
					4本	令和5年度
22	防災貯水槽の設置及び維持管理、飲料水対策	2,146	2,554	4,700	3,312 t	改善・見直しのうえ継続
					3,262 t	令和5年度
23	自動車維持事務	3,964	851	4,815	7,600人	現状維持
					2,684人	令和5年度
24	災害備蓄倉庫維持	1,430	4,256	5,686	65箇所	現状維持
					67箇所	令和5年度
25	防災被服補充	2,000	2,554	4,554	—	現状維持
					13回	令和5年度

施 策	策 412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位
事 業 名	防災会議等運営事務					1
目 的	災害対策基本法に基づく墨田区地域防災計画の作成及び実施推進のための防災会議（連絡責任者会議）、防災関係機関連絡会の開催により各主体の防災力の向上を図り、組織災害時における協力体制を確保する。					主管課・係（担当）
						防災課防災係
						03-5608-6206
対 象 者	墨田区職員、墨田区防災会議委員					
根 拠 法 令 関 連 計 画	災害対策基本法、墨田区防災会議条例、墨田区地域防災計画					
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤4	
事 業 内 容	災害対策基本法に基づく、墨田区地域防災計画の作成及び実施推進のための防災会議（連絡責任者会議）の運営を行うとともに、災害時における協力体制の確保のために防災関係機関連絡会を開催している。 防災会議については、自治体の首長を会長とし、地域に関係する公共機関の職員を委員とし、災害対策基本法第14条から第17条に基づき設置される常設の会議体である。					
経 過	開始年度				終了予定	
	[平成26年度] 連絡責任者会議1回、防災会議1回、関係機関連絡会3回開催 [平成27年度] 連絡責任者会議1回、防災会議1回、関係機関連絡会4回開催 [平成28年度] 連絡責任者会議1回、防災会議1回、関係機関連絡会3回開催 [平成29年度] 連絡責任者会議1回、防災会議1回、関係機関連絡会3回開催 [平成30年度] 連絡責任者会議1回、防災会議1回、関係機関連絡会3回開催 [令和元年度] 連絡責任者会議1回、防災会議1回、関係機関連絡会2回開催 [令和2年度] 連絡責任者会議1回（書面）、防災会議1回（書面）、関係機関連絡会3回（うち書面2回）開催 [令和3年度] 連絡責任者会議1回、防災会議1回（書面）、関係機関連絡会1回（うち書面1回）開催 [令和4年度] 連絡責任者会議1回、防災会議1回、関係機関連絡会2回開催 [令和5年度] 連絡責任者会議1回、防災会議2回、関係機関連絡会2回開催					
議 会 質 問 の 状 況						
そ の 他 特 記 事 項						

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		179	180	194	194	359	194
A.決算額（令和6年度は見込み）		64	52	74	79	157	194
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		64	52	74	79	157	194
執行率（%）		35.8%	28.9%	38.1%	40.7%	43.7%	100.0%
B.人コスト		4,992	4,417	5,277	4,907	5,107	
総事業決算額（A+B）		5,056	4,469	5,351	4,986	5,264	
予算書P（令和6年度）		P89 1		執行実績報告書P（令和5年度）		P27 1	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
報酬	防災会議委員報酬	53	報酬	防災会議委員報酬	128	報酬	防災会議委員報酬	165
役務費	通信運搬費	26	役務費	通信運搬費	29	役務費	通信運搬費	29

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	防災会議開催数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		1	R7	目標	1	1	1	1
				実績	1	1	1	1
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1	1	1	1	1	1
		実績	1	1	1	2		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	議事の大小・有無にかかわらず、年1回は防災会議を開催する必要があるため							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	地域防災計画の修正・配布（印刷製本等）				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		1	R7	目標	1	1	1	1
				実績	1	1	1	1
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1	1	1	1	1	1
		実績	1	1	1	1		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	都や近隣区では、隔年修正など当区のように毎年修正作業を行っていない自治体もあるが、隔年修正に変更するには、十分な議論を重ねたうえで慎重に判断する必要がある。現時点では、毎年修正を行うことが望ましいと考えているため、指標及び数値を選定した。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	委員報酬については、本区の統一基準に基づく。また、委員構成については、東京都防災会議の組織及び所掌事務の例に準じて、墨田区防災会議条例に基づくため。

課題・問題点
東京都地域防災計画の修正等に係る対応を随時検討する必要がある。

施 策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位
事 業 名	危機管理事業					2
目 的	危機事象発生時の体制整備・情報伝達等を行うことで、区民等への被害を最小限にすることを目的とする					主管課・係（担当）
						安全支援課安全支援・空き家対策係
						03-5608-6199
対 象 者	区職員、区民					
根 拠 法 令	・墨田区危機管理基本計画 ・墨田区危機管理対策本部要綱 ・墨田区新型インフルエンザ等対策行動計画					
関 連 計 画	・墨田区事業継続計画(BCP)新型インフルエンザ編 ・墨田区事業継続計画(BCP)新型コロナウイルス感染症対応版 ・武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律(国民保護法)					
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤2	
事 業 内 容	・国民保護計画の整備 墨田区危機管理基本計画の策定・修正、国民保護協議会の運営、及び国民保護マニュアルの作成(区民用、職員用)を行う。 ・危機情報のメール配信 危機情報を正確かつ迅速に区民等へ伝達するため、あらかじめ登録した区民等にメールを配信する。 ・全国瞬時警報システム(J-ALERT)の整備 対処に時間的余裕のない武力攻撃事態等に関する国民保護情報等を住民に迅速に伝えるため、全国瞬時警報システム(J-ALERT)を整備する。					
経 過	開始年度	平成15年度			終了予定	
	〔15年度〕・危機管理ガイドライン制定 〔16年度〕・危機管理対策本部要綱制定 ・国民保護法成立 〔17年度〕・危機管理基本計画策定、総合危機管理マニュアル作成 ・墨田区国民保護対策本部及び緊急処理事態対策本部条例制定 ・墨田区国民保護協議会条例制定(17年9月) ・第1回墨田区国民保護協議会実施 〔18年度〕・標準初動マニュアル作成、メール配信開始 ・墨田区国民保護計画策定 〔19年度〕・墨田区職員国民保護マニュアル作成 〔22年度〕・事業継続計画(BCP)新型インフルエンザ編策定 ・全国瞬時警報システム(J-alert)：H23年3月設置、4月運用開始 〔23年度〕・全国瞬時警報システム(Jアラート)運用開始 〔24年度〕・新型インフルエンザ等対策本部条例制定 〔25年度〕・新型インフルエンザ等対策特別措置法施行 〔26年度〕・新型インフルエンザ等対策行動計画策定 〔27年度〕・墨田区国民保護計画の修正 〔30年度〕・Jアラート新型受信機への機器更新 ・墨田区職員国民保護マニュアルの修正 〔R元年度〕・Jアラート自動起動機兼表示用PCの入れ替え 〔R2年度〕・墨田区事業継続計画(BCP)新型コロナウイルス感染症対応版策定					
議 会 質 問 の 状 況						
そ の 他 特 記 事 項						

予算・決算額推移(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額(事業費)		7,669	8,879	3,457	3,041	3,092	3,137
A.決算額(令和6年度は見込み)		7,021	8,247	2,716	2,723	2,787	3,137
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		7,021	8,247	2,716	2,723	2,787	3,137
執行率(%)		91.6%	92.9%	78.6%	89.5%	90.1%	100.0%
B.人コスト		14,855	13,232	8,796	8,179	8,512	
総事業決算額(A+B)		21,876	21,479	11,512	10,902	11,299	
予算書P(令和6年度)		P79		執行実績報告書P(令和5年度)		P18 12 13	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和４年度（決算）			令和５年度（決算）			令和６年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
役務費	電気機器通信料	221	報酬	協議会委員報酬	0	報酬	協議会委員報酬	263
需用費	Jアラートバッテリー・プリンター修繕	212	旅費	普通旅費	2	委託料	すみだ安全安心メール運用保守	990
需用費	国民保護コピー代消耗品	110	役務費	電気機器通信料	219	役務費	国民保護郵送料	22
役務費	国民保護郵送料	8	委託料	すみだ安全安心メール運用保守	1,155	委託料	Jアラート保守	1,289
委託料	すみだ安全安心メール運用保守	573	需用費	国民保護コピー代消耗品	84	使用料及び賃借料	PCの借上	573
委託料	Jアラート保守	743	役務費	国民保護郵送料	11			
使用料及び賃借料	PCの借上	573	委託料	Jアラート保守	743			
需用費	Jアラート修繕	211	使用料及び賃借料	PCの借上	573			

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	すみだ安全・安心メール登録者数(総計)				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		25,000	令和7年度	目標		18,400	19,200	20,000
				実績	17,415	20,535	22,664	24,202
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	20,800	21,600	22,400	25,000	28,000	28,000
		実績	26,093	27,677	27,823	28,003		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	すみだ安全・安心メール登録者数が増えることで、万が一危機事象が発生した時の被害を最小限に止めることができるので、安全安心な区民生活のためには有益である。なお、目標値については、当初最終目標値としていた25,000を達成しているため、28,000を維持することに変更する。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	刑法犯の認知件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		2,000	7	目標	3,310	3,283	3,240	3,199
				実績	3,172	2,848	2,617	2,368
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	3,200	3,093	3,032	2,400	2,200	2,000
		実績	1,896	1,817	1,953	2,137		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	すみだ安全・安心メールで配信する危機情報の大半は防犯に関するものであり、区内刑法犯の認知件数減少は区民等への被害減少の結果と言える。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	すみだ安全・安心メールの登録者数は毎年増加傾向にある。危機事象発生時は、迅速に区民に情報提供していく必要がある。

課題・問題点
東京都の国民保護計画の変更内容等を踏まえ、墨田区国民保護計画を変更する。

施 策	策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める			部内優先順位
事 業 名	消防団の運営					3
目 的	平常時火災の際に消防署活動の一端を担い、災害時には住民防災組織との連携により出火防止等に努める消防団の活動推進を図る。					主管課・係（担当）
						防災課防災係
						03-5608-6206
対 象 者	消防団または少年消防団に加入している区民・在学在勤者、消防団運営委員					
根 拠 法 令 関 連 計 画	特別区の消防団の設置等に関する条例、墨田区消防団補助金交付要綱、墨田区消防少年団補助金交付要綱					
実 施 基 準	法令基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤3	
事 業 内 容	特別区の消防団の設置等に関する条例、墨田区消防団補助金交付要綱等に基づき、災害時や火災の際に消防活動の一端を担い、住民防災組織との連携により出火防止等に努める消防団の活動推進を図るため、活動全般について支援を行っている。					
経 過	開始年度	昭和47年度以前		終了予定		
	[平成26年度] 補助金交付、非常炊飯器セット・拡声器・エマージェンシーバッグ支給 [平成27年度] 補助金交付、ホースキャリアバッグ・LED携帯ライト支給、消防団運営委員会（2回） [平成28年度] 補助金交付、ウインドブレーカー上下・運動靴・AED支給、消防団運営委員会（1回） [平成29年度] 補助金交付、ウインドブレーカー上下・運動靴・AED支給、消防団運営委員会（2回） [平成30年度] 補助金交付、モバイルバッテリー・AED支給、消防団運営委員会（1回） [令和元年度] 補助金交付、モバイルバッテリー・AED・デイバック支給、消防団運営委員会（2回） [令和2年度] 補助金交付、スマートウォッチ・LED投光器・投光器スタンド支給、消防団運営委員会（1回） [令和3年度] 補助金交付、スマートウォッチ・ポータブル電源支給、消防団運営委員会（2回） [令和4年度] 補助金交付、ワイヤレスヘッドホン・ポータブル電源支給、消防団運営委員会（2回） [令和5年度] 補助金交付、ワイヤレスヘッドホン・バルーンライト支給、消防団運営委員会（1回）					
議 会 質 問 の 状 況						
そ の 他 特 記 事 項						

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		20,436	21,009	23,498	22,693	24,493	24,373
A.決算額（令和6年度は見込み）		20,253	20,696	22,719	21,958	22,963	24,373
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		20,253	20,696	22,719	21,958	22,963	24,373
執行率（%）		99.1%	98.5%	96.7%	96.8%	93.8%	100.0%
B.人コスト		3,495	6,175	7,037	6,543	5,107	
総事業決算額（A+B）		23,748	26,871	29,756	28,501	28,070	
予算書P（令和6年度）		P96 2		執行実績報告書P（令和5年度）		P33 2	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	消耗品費等	6,278	需用費	消耗品費等	7,283	需用費	消耗品費等	8,689
役務費	通信運搬費	0	役務費	通信運搬費	0	役務費	通信運搬費	4
負担金補助及び交付金	補助金等	15,680	負担金補助及び交付金	補助金等	15,680	負担金補助及び交付金	補助金等	15,680

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	消防団員数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		650	令和7年度	目標	650	650	650	650
				実績	504	482	476	488
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	650	650	650	650	650	650
		実績	500	500	505	503		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	住民防災組織等を担う人材の確保は重要であるため。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	災害出動回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		-	令和7年度	目標	-	-	-	-
				実績	40	25	16	27
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	-	-	-	-	-	-
		実績	18	35	19	17		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	実際の災害活動への参加回数により、活動実績を把握している。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	消防団員の確保等、組織活動の強化につながる新たな支援策を検討し、実践する。

課題・問題点
消防団員数について、目標に達しない状況である。

施 策	策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位	
事 業 名	応急対策備蓄物資の整備・備蓄						4	
目 的	地震等の災害時における罹災者保護を目的として、応急食糧・生活必需品等の整備・備蓄を行う。						主管課・係（担当）	
							防災課防災係	
							03-5608-6206	
対 象 者	災害時における罹災者							
根 拠 法 令 関 連 計 画	災害対策基本法、墨田区地域防災計画							
実 施 基 準	区独自基準		実施方法	直営	人員体制・委託先		常勤5	
事 業 内 容	災害対策基本法、墨田区地域防災計画、首都直下地震による東京の被害想定（令和4年5月・東京都）等に基づき、備蓄物資の配備、更新及び維持管理を行う。							
経 過	開始年度		昭和38年度			終了予定		
	[平成24年度] 要配慮者向け物資（アレルギー対応粉ミルク、エアマット等）を充実 [平成27年度] 「女性の防災対策懇談会」からの提言を受け、3か年計画で、女性や要配慮者に配慮した備蓄物資（ラップ、パンティーライナー、多目的衛生シート等）を配備 [平成30年度] 食物アレルギーへの対応等のため、品目の見直し（発熱剤付きアルファ米を個食のわかめご飯、ビスケットをライスクッキーに変更）を行い、令和3年度までに順次入れ替え [令和2年度] 新型コロナウイルス対策として感染症対策物資や避難所用テントを配備 [令和5年度] 東京都の被害想定見直しに伴い、エアマット、簡易トイレ及び携帯トイレを追加配備							
議 会 質 問 の 状 況	[平成29年2定、平成30年予特、平成30年決特] 備蓄食糧品の適正量・活用・見直しについて [令和2年予特、令和2年6月、令和3年2月] スマホ充電器の設置について [令和2年6月] 感染症対策に必要な備蓄品について [令和2年6月] ダンボールベットの配備について [令和4年10月決特] 液体ミルクの備蓄について [令和6年2月] 能登半島地震を教訓とした墨田区の防災対策について							
そ の 他 特 記 事 項								

予算・決算額推移(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額(事業費)		57,789	82,755	62,100	45,860	68,616	73,255
A.決算額(令和6年度は見込み)		55,732	81,936	59,657	42,875	65,403	73,255
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		55,732	81,936	59,657	42,875	65,403	73,255
執行率(%)		96.4%	99.0%	96.1%	93.5%	95.3%	100.0%
B.人コスト		6,990	7,060	7,916	7,361	6,810	
総事業決算額(A+B)		62,722	88,996	67,573	50,236	72,213	
予算書P(令和6年度)		P91 13		執行実績報告書P(令和5年度)		P29 13	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	食糧品等購入	35,454	需用費	食糧品等購入	58,436	需用費	食糧品等購入	54,862
役務費	物資運搬等	921	役務費	物資運搬等	837	役務費	物資運搬等	1,499
委託料	毛布クリーニング等	5,311	委託料	毛布クリーニング等	4,284	委託料	毛布クリーニング等	6,480
備品購入費	マンホールトイレ等購入	1,189	備品購入費	マンホールトイレ等購入	1,882	備品購入費	マンホールトイレ等購入	10,414

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	食糧品の備蓄数				単位	食
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		369,030	令和7年度	目標	369,030	369,030	369,030	369,030
				実績	541,317	515,181	463,119	425,253
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	369,030	369,030	369,030	369,030	369,030	369,030
		実績	407,194	369,030	369,030	369,030		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	備蓄品の中でも、区民の生命に関わる食糧品の備蓄数が指標としては最も適切である。食糧品については、区の被害想定における避難所生活者数の1日分(=3食、ただし粉ミルクは3日分)及び帰宅困難者の1食分を区が備蓄することとしているため、目標値は上記のとおりである。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	住民意識調査「家庭で行っている防災対策」で「食糧の確保」と回答した割合				単位	%
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		60	令和7年度	目標	40		45	
				実績	44.1		40.5	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	50		55		60	60
		実績	63.7		62.5			
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区が行う備蓄とともに、家庭での備蓄に対する意識を高めていくことが本事業の趣旨である。よって、それを客観的に示している住民意識調査の質問項目を指標にする。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	大規模災害時に止むを得ず避難所生活を強いられることになった区民のための備蓄物資確保は自治体の責務であるため、引き続き継続する。

課題・問題点
令和5年度、備蓄品目の見直し、受援物資の受け入れ態勢等の検討を行ったため、具現化する必要がある。

施 策	策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位	
事 業 名	防災行政無線整備・運用・維持管理事務						5	
目 的	災害時及び平常時の情報伝達・収集のための防災情報システムの整備・運用・維持管理を行う。						主管課・係（担当）	
							防災課防災係	
							03-5608-6206	
対 象 者	墨田区災害対策本部、各防災関係機関、各地域施設、各児童館、各保育園、各福祉施設、各教育施設、各小中学校、各医療機関、各町会・自治会							
根 拠 法 令 関 連 計 画	墨田区防災行政無線局運用管理要綱 墨田区防災行政無線局（固定系）運用管理要綱 墨田区防災行政無線設備保守管理要綱 電波法及び関連規則 無線局の運用協定（墨田区職員アマチュア無線クラブ） 災害非常無線通信の協力に関する協定（墨田区アマチュア無線局非常通信協力会）							
実 施 基 準	法令基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	常勤3: 委託先:HYSエンジニアリングサービス			
事 業 内 容	毎月1日「墨田区防災の日」（1月及び1日が閉庁月は除く）に地域系防災行政無線の定期交信訓練を実施する。 固定系・地域系・移動系・映像系各行政無線機器の保守点検を年一回（例年6～7月）委託業者が実施する。 固定系再構築工事完了後の状況を踏まえた追加整備を実施する。 ※事業には法令業務と独自業務が混在している。 墨田区アマチュア無線局非常通信協力会及び墨田区職員アマチュア無線クラブの間で協定を締結のもと、年2回、墨田区職員アマチュア無線クラブが統制局になり、墨田区アマチュア無線局非常通信協力会と通信訓練を実施する。							
経 過	開始年度	昭和55年			終了予定			
	[昭和53年度] 墨田区職員アマチュア無線クラブの間で「無線局の運用協定」を締結 [昭和56年度] 墨田区アマチュア無線局非常通信協力会の間で「災害非常無線通信の協力に関する協定」を締結 【平成20年度】 地域系防災行政無線デジタル化及び災害情報管理システムを導入 【平成24年度】 スカイツリーカメラ設置 【平成26年度～令和3年度】 防災行政無線システム再構築計画・設計・施工 【令和元年度】 駅前カメラ（5か所）設置 【令和2年度】 北部カメラ更新 【令和3年度】 庁舎カメラ更新							
議 会 質 問 の 状 況	[令和2年10月災害対策特別委員会] 無線に代わり、防災ラジオを配布することについて [令和3年10月決算特別委員会] 無線が聞こえづらいことについて							
そ の 他 特 記 事 項								

予算・決算額推移(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額(事業費)		107,627	159,788	62,779	51,710	59,142	67,693
A.決算額(令和6年度は見込み)		103,913	159,178	60,135	49,584	46,998	67,693
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		103,913	159,178	60,135	49,584	46,998	67,693
執行率(%)		96.5%	99.6%	95.8%	95.9%	79.5%	100.0%
B.人コスト		8,959	7,923	7,924	6,543	5,107	
総事業決算額(A+B)		112,872	167,101	68,059	56,127	52,105	
予算書P(令和6年度)		P90 8		執行実績報告書P(令和5年度)		P28 8	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	無線関連用品購入	364	旅費	無線資格講習会旅費	0	旅費	無線資格講習会旅費	5
役務費	無線回線料・再免許費用等	2,580	需用費	無線関連用品購入	407	需用費	無線関連用品購入	569
委託料	無線機器保守点検	30,530	役務費	無線回線料・再免許費用等	1,497	役務費	無線回線料・再免許費用等	1,719
使用料及び賃借料	災害情報管理システム	1,573	委託料	無線機器保守点検	32,020	委託料	無線機器保守点検	32,191
工事請負費	子局設置工事	14,021	使用料及び賃借料	災害情報管理システム	1,574	使用料及び賃借料	災害情報管理システム	3,293
負担金補助及び交付金	無線講習受講料等	516	工事請負費	子局設置工事	10,910	工事請負費	子局設置工事	28,987
			負担金補助及び交付金	無線講習受講料等	563	負担金補助及び交付金	無線講習受講料等	929

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	防災行政無線固定系子局数				単位	局
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		-	R3	目標	65	72	73	74
				実績	65	72	73	74
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	74	76	77	77	77	-
		実績	74	75	77	79		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	建築物の高層化が進む中、防災無線による屋外放送の届きやすさは、設置局数に依存する面が強い。固定系再構築工事における計画数(74)は令和2年度までに完了したが、状況に応じて増設等の対応を実施する。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	電話応答サービス着信件数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		-	-	目標	-	-	-	-
				実績	132	236	210	901
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	-	-	-	-	-	
		実績	381	261	117	135		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	令和元年台風19号の影響を除くと件数が令和2年まで増加傾向にあり、サービスの周知が進んだと認識している。しかし屋外放送が聞こえないことの表れでもあるので慎重に分析した。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	災害時の防災行政無線の有効性・重要性は、過去の災害事例からも明らかである。今後も設備の適切な維持管理に加え、放送内容等運用方法の改善も図りつつ、有効活用していく必要がある。 発災時、有線での通信は途絶する可能性があり、無線での通信は有効的であり、引き続きアマチュア無線局の協力体制について継続していく。

課題・問題点
固定系防災無線については、高層建築物の増加により屋外放送が届きにくくなっている。子局追加整備のほか文字連動や電話応答など、別のサービスを併用しての補完や周知をしていく必要がある。 移動系防災無線の統制局は、法改正の経過措置が切れる令和4年11月で使用できなくなる見込みであったが、新型コロナウイルス感染の影響から当面継続使用できることとなった。再度期限の通告があるまでは、既存の無線と併用し使用を継続する。 「墨田区アマチュア無線局非常通信協力会」及び「墨田区職員アマチュア無線クラブ」の会員数が減少している。

施 策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位
事 業 名	地域防災活動拠点会議事務					6
目 的	小中学校等を災害時の活動拠点として位置づけ、区域内の町会・自治会が一体となつて、災害時における情報連絡体制の確立と避難所としての機能充実を図る。					主管課・係（担当）
						防災課防災係
						03-5608-6206
対 象 者	区民					
根 拠 法 令 関 連 計 画	墨田区地域防災計画					
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤4	
事 業 内 容	災害時に避難所となる施設に設置する地域防災活動拠点会議に対し、助成金を交付して各拠点会議の自主的な運営と積極的な活動を支援する。					
経 過	開始年度	昭和55年			終了予定	
	【昭和55年度】更正小学校地区でモデル実施 【～平成4年度】その後条件整備を図りながら全小学校32校で結成 【平成11年度】小学校の統廃合により30会議体に再編 【平成27年度～令和元年度】中学校へ避難所拡充 【令和3年度～】総合運動場の避難所指定、旧隅田小・旧向島中の指定解除（旧隅田小の拠点会議は総合運動場に移転）これにより、全39指定避難所に38会議体の設置（隣接する吾嬬立花中学校と中川小学校は一つの拠点会議で一体運営）					
議 会 質 問 の 状 況						
そ の 他 特 記 事 項						

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		3,769	3,769	3,769	3,629	3,629	3,629
A.決算額（令和6年度は見込み）		3,315	2,987	2,987	3,177	3,496	3,629
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		3,315	2,987	2,987	3,177	3,496	3,629
執行率（%）		88.0%	79.3%	79.3%	87.5%	96.3%	100.0%
B.人コスト		9,612	9,074	11,434	10,633	11,065	
総事業決算額（A+B）		12,927	12,061	14,421	13,810	14,561	
予算書P（令和6年度）		P93 23		執行実績報告書P（令和5年度）		P31 23	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
役務費	通信運搬料	19	役務費	通信運搬料	17	役務費	通信運搬料	29
負担金補助及び交付金		3,158	負担金補助及び交付金		3,479	負担金補助及び交付金		3,600

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	拠点会議設置数				単 位	箇所
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		38	令和2	目標	33	34	36	40
				実績	33	34	36	38
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	38	38	38	38		
		実績	38	28	38	38		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	災害発生時の避難者受入れのため、避難所が開設される。避難所の運営体制について、各拠点会議で検討されており、すべての指定避難所への拠点会議設置を目標とし、令和2年度に達成した。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	避難所（拠点）開設の運営体制を確立した拠点数				単 位	箇所
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		38	令和2	目標	0	1	4	7
				実績	0	0	0	2
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	38	38	38	38		
		実績	38	38	38	38		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	避難所の円滑な運営には、平常時からの運営体制づくりが重要である。避難所運営体制の確立に向け、全拠点会議において、水害時運営についてのマニュアルを作成した。 今後は、地震編マニュアルの整備 、マニュアルに基づく拠点（避難所運営）訓練の実施を進めていく。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	大規模災害時の避難所運営体制の構築は不可欠であるため。

課題・問題点
町会・自治会の高齢化や加入率の低下による担い手不足の問題があり、若年層や女性人材、防災士の参画等も進めていく必要がある。

補助金 名称	地域防災活動拠点会議助成金				主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区地域防災活動拠点会議助成金交付要綱				防災課防災係	
補助概要	拠点会議の活動に要する経費のうち、区長が適当と認めるもの （限度額）2万円×構成町会・自治会数				03-5608-6206	
目的	災害時に避難所となる施設に設置する地域防災活動拠点会議に対し、助成金を交付して各拠点会議の自主的な運営と積極的な活動を支援する。					
対象	地域防災活動拠点会議					
基準	区独自基準					
補助条件	拠点会議の活動に要する経費のうち、区長が適当と認めるもの （限度額）2万円×構成町会・自治会数					
経過	開始年度	平成3年度		終了予定		
	【昭和55年度】更正小学校地区でモデル実施 【～平成4年度】その後条件整備を図りながら全小学校32校で結成 【平成11年度】小学校の統廃合により30会議体に再編 【平成27年度～令和元年度】中学校へ避難所拡充 【令和3年度～】総合運動場の避難所指定、旧隅田小・旧向島中の指定解除（旧隅田小の拠点会議は総合運動場に移転） これにより、全39指定避難所に38会議体の設置（隣接する吾嬬立花中学校と中川小学校は一つの拠点会議で一体運営）					
議会質問 の状況						
その他 特記事項						

予算・決算額推移（千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算額（事業費）		3,740	3,740	3,740	3,600	3,600	3,600
決算額（令和6年度は見込み）		3,287	2,958	2,958	3,158	3,479	3,600
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		3,287	2,958	2,958	3,158	3,479	3,600
執行率（％）		87.9%	79.1%	79.1%	87.7%	96.6%	100.0%

補助金の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	拠点会議設置数				単位	箇所
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		38	令和2年度	目標	33	34	36	40
				実績	33	34	36	38
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	38	38	38	38		
		実績	38	38	38	38		
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		災害発生時の避難者受入れのため、避難所が開設される。避難所の運営体制について、各拠点会議で検討されており、すべての指定避難所への拠点会議設置を目標とし、令和2年度に達成した。						
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	避難所（拠点）開設の運営体制を確立した拠点数				単位	箇所
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		38	令和2年度	目標	0	1	4	7
				実績	0	0	0	2
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	38	38	38	38		
		実績	38	38	38	38		
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		避難所の円滑な運営には、平常時からの運営体制づくりが重要である。避難所運営体制の確立に向け、全拠点会議において、水害時運営についてのマニュアルを作成した。 今後は、地震編マニュアルの整備、マニュアルに基づく拠点（避難所運営）訓練の実施を進めていく。						

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	大規模災害時の避難所運営体制の構築は不可欠であるため。

課題・問題点
町会・自治会の高齢化や加入率の低下による担い手不足の問題があり、若年層や女性人材、防災士の参画等も進めていく必要がある。

施 策	策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める			部内優先順位	
事 業 名	住民防災組織活動及び装備強化					7	
目 的	住民防災組織に対し、防災訓練はもとより、防災資機材や備蓄物資の購入・管理、防災意識の強化等の防災活動に要する費用を助成することにより、組織の円滑な運営と活動の充実を図る。また、サポート隊に対し、必要な資器材及び装備品を交付し、活動を支援する。					主管課・係（担当）	
						防災課防災係	
						03-5608-6206	
対 象 者	各町会、自治会						
根 拠 法 令 関 連 計 画	・住民防災組織の育成に関する条例・墨田区防災組織助成金交付要綱・墨田区住民防災組織防災資器材倉庫等設置助成金交付要綱						
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤3		
事 業 内 容	令和6年4月現在、171町会・自治会の全てにおいて住民防災組織が結成されており、墨田区住民防災組織の育成等に関する条例等に基づき、防災活動に要する費用等を助成している。また、地震などの非常災害時に、高齢者・障害者等の要配慮者の身の安全を確保するため、地域ぐるみによる連帯とふれあいの中での協力態勢を目的として、平成12年度に「災害弱者（災害時要援護者）サポート隊」を結成し、平成26年度には、災害対策基本法の一部改正に伴い、「要配慮者サポート隊」と名称を改めて、結成を進めている。平成20年度からはサポート隊を結成した町会・自治会へ必要となる資器材を交付している。さらに、平成27年度に墨田区住民防災組織防災資器材倉庫等設置助成金交付要綱を制定し、老朽化した防災資器材倉庫の建替え等に対して30万円を上限に助成を行っている。						
経 過	開始年度	昭和51年度以前			終了予定		
	昭和51年度 昭和53年度～ 平成12年度～ 平成19年度 平成20年度～ 平成26年度 平成27年度 令和2年度	墨田区住民防災組織の育成等に関する条例制定 墨田区住民防災組織助成金交付要綱制定 住民防災組織活動の助成（防災資機材、備蓄物資の購入・管理、印刷物の作成、防災訓練） 防災活動拠点会議等において、各町会に対し「災害時要援護者サポート隊」の結成依頼 災害時要援護者総合支援プラン策定（関係機関で要援護者名簿を共有） 要配慮者サポート隊に対して、救助等に必要な資器材の交付及び隊員の普通救命講習における費用の助成 要配慮者避難支援プラン改定（名簿情報の追加（生年月日・性別）、共有先の拡充） 墨田区住民防災組織防災資器材倉庫等設置助成金交付要綱制定 この間の4つの助成金を墨田区防災活動助成金交付要綱に統合					
議 会 質 問 の 状 況							
そ の 他 特 記 事 項							

予算・決算額推移(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額(事業費)		40,818	40,998	45,541	47,357	42,111	41,304
A.決算額(令和5年度は見込み)		38,392	37,954	44,156	43,236	40,081	41,304
財 源	国						
	都			4,451	3,215		
	その他						
一般財源		38,392	37,954	39,705	40,021	40,081	41,304
執行率(%)		94.1%	92.6%	97.0%	91.3%	95.2%	100.0%
B.人コスト		6,117	6,175	6,157	5,725	8,512	
総事業決算額(A+B)		44,509	44,129	50,313	48,961	48,593	
予算書P(令和6年度)		P90 14(2)～(4)		執行実績報告書P(令和5年度)		P29 14(2)	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	資機材交付等	676	需用費	資機材交付等	505	需用費	印刷製本費	55
役務費	通信運搬費	183	役務費	通信運搬費	154	役務費	通信運搬費	161
委託料	版下作製費	88	委託料	版下作製費	88	委託料	版下作製費	88
負担金補助及び交付金	防災活動助成金	38,517	負担金補助及び交付金	防災活動助成金	39,334	負担金補助及び交付金	防災活動助成金	39,950
	資器材倉庫設置助成金	557		資器材倉庫設置助成金	0		資器材倉庫設置助成金	1,050
	電源確保助成金	3,215						

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	区民防災訓練開催回数				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		170	令和7年度	目標	169	169	169	170
				実績	128	114	131	131
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	170	170	170	170	170	170
		実績	105	103	89	106		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	全町会・自治会が、年に一度以上防災訓練を実施することで、防災意識の高揚を図るため。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	要配慮者サポート隊の結成数				単位	隊
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		171	R7	目標	169	169	169	170
				実績	137	140	143	144
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	170	171	171	171	171	171
		実績	145	148	148	148		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	全町会・自治会に要配慮者サポート隊を設置することで、要配慮者の避難時及び発災前後の支援にかかる個別支援プランを作成することへつなげ、共助による要配慮者の円滑な避難行動や避難生活が可能となるため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	住民防災組織の結成を支援するとともに、災害時に要配慮者が円滑な避難行動および避難生活ができるよう、組織の円滑な運営と活動の充実・共助による防災対策の強靱化を図るためにも、区として支援を継続していく必要がある。また、区民参加型総合防災訓練の実施、訓練メニューの公開、防災訓練計画策定に当たっての相談体制の充実により、より多くの区民が興味を持ち、参加しやすい区民防災訓練となるよう支援していく。

課題・問題点
区民防災訓練助成金等については訓練の活性化等を図るため、一定の見直しを行うなど、区の助成については、施策の効果を高めるためにも実績に見合ったインセンティブを検討する必要がある。また、区民防災訓練の活性化（より多くの町会・自治会が区民防災訓練を実施し、より多くの区民がそれぞれの地域の区民防災訓練に参加する。）につなげる支援策を検討し、補助金がより有効に活用されるようにする。

補助金名称	防災活動助成金			主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区防災活動助成金交付要綱			防災課防災係	
補助概要	町会・自治会が実施し、又は複数の町会・自治会が合同で実施する区民防災訓練に対してその費用を助成することにより、区民の連携意識の高揚と、より一層の地域防災態の強化を図る。			03-5608-6206	
目的	町会・自治会が行う防災訓練を支援することで、区民の災害時に対する即応力・自衛力を高める。				
対象	全町会・自治会				
基準	区独自基準				
補助条件	・助成金の額は、対象の町会・自治会の世帯数によって次の表のとおり金額とする。 世帯数200未満152,000円 世帯数200以上400未満162,000円 世帯数400以上800未満202,000円 世帯数800以上1,200未満242,000円 世帯数1,200以上1,600未満282,000円 世帯数1,600以上2,000未満302,000円 世帯数2,000以上322,000円				
経過	開始年度	昭和57年以前	終了予定		
	【昭和57年度】 防災訓練助成金の交付（均等割額＋会員数に応じた額） 【平成元年度】 連合町会等で合同訓練を実施する場合の助成開始 【平成22年度】 連合(合同)区民防災訓練助成金交付要綱改正 ⇒ 合同区民防災訓練助成金交付要綱 【令和元年度】 事業見直しの結果、4つの助成金（墨田区区民防災訓練助成金・墨田区住民防災組織活動助成金・防災行政無線戸別受令機に係る負担金補助・墨田区合同区民防災訓練助成金）を統合及び拡充し、防災活動助成金交付要綱（令和2年4月から適用）を制定				
議会質問の状況					
その他特記事項					

予算・決算額推移（千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算額（事業費）			39,000	39,242	39,542	40,122	41,000
決算額（令和6年度は見込み）			36,975	37,835	38,517	39,334	41,000
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		0	36,975	37,835	38,517	39,334	41,000
執行率（％）		#DIV/0!	94.8%	96.4%	97.4%	98.0%	100.0%

補助金の 成果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	区民防災訓練開催回数					単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
		170	令和 7 年度	目標	169	169	169	170	
				実績	128	114	139	131	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		目標	170	170	170	170	170	170	
		実績	105	103	89	106			
		指標の選定理由及び目標値の理由							
	全町会・自治会が、年に一度以上防災訓練を実施することで、防災意識の高揚を図るため。								
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	区民防災訓練参加者数					単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
		22,000	令和7年度	目標	22,000	22,000	22,000	22,000	
				実績	20,100	19,000	19,300	17307	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		目標	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	
		実績	4,833	5,743	8,663	8,468			
		指標の選定理由及び目標値の理由							
より多くの区民が防災訓練に参加することで、災害に対する即応力・自衛力を高められるため。									
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等							
現状維持		令和 2 年度以降の助成金の整理・統合に伴い、区民参加型総合防災訓練の実施、訓練メニューの公開、防災訓練計画策定に当たっての相談体制の充実により、より多くの区民が興味を持ち、参加しやすい区民防災訓練となるよう支援していく。							

課題・問題点	
区民防災訓練助成金等については、訓練の活性化等を図るため、一定の見直し等の検討が引き続き必要である。また、コロナ収束後の区民防災訓練の活性化（より多くの町会・自治会が区民防災訓練を実施し、より多くの区民がそれぞれの地域の区民防災訓練に参加する。）につながる支援策を検討し、補助金がより有効に活用されるようにする。	

補 助 金 名 称	住民防災組織防災資器材倉庫等設置助成金			主管課・係（担当）	
根拠法令	住民防災組織防災資器材倉庫等設置助成金交付要綱			防災課防災係	
補助概要	区が2か年計画で行った全町会・自治会へのスタンドパイプセット配付等により、防災資器材の保管スペースが不足していること、また、既存の倉庫が老朽化しているが、建替えに多額の費用がかかることから、新規設置又は建替えに要する費用の一部を助成している。			03-5608-6206	
目 的	町会・自治会で保有する防災資器材等について、保管場所不足等の解消を図り、平常時の訓練活動及び震災時の応急活動を迅速に行えるようにする。				
対 象	住民防災組織				
基 準	区独自基準				
補助条件	・ 墨田区要配慮者避難支援プランに規定するサポート隊等の要配慮者支援組織を有する組織 ・ 倉庫等を建て替える場合にあっては、既存の倉庫等が、設置してから20年以上経過し、又は老朽化が著しいと認められるものに限り助成とする。 ・ 助成金の額は新規設置又は建替えに要する費用の4分の3の額とし、30万円を上限とする。				
経 過	開始年度	27年度	終了予定		
	【平成27年度】墨田区住民防災組織防災資器材倉庫等設置助成金交付要綱策定				
議会質問 の状況					
その他 特記事項					

予算・決算額推移（千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算額（事業費）		1,950	2,550	2,550	1,950	1,350	1,050
決算額（令和6年度は見込み）		1,280	193	423	557	0	1,050
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		1,280	193	423	557	0	1,050
執行率（％）		65.6%	7.6%	16.6%	28.6%	0.0%	100.0%

補助金の 成果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	防災資器材倉庫の建替え・新規設置に係る協議件数（目標）と申請件数（実績）				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		5	R7	目標	13	10	5	5
				実績	10	5	2	5
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	5	5	5	5	5	5
		実績	1	2	2	0		
		指標の選定理由及び目標値の理由						
	防災資器材倉庫の建替え・新規設置に係る住民防災組織からの協議件数に対して実際の申請件数を指標とすることで、交付要件への適合性・実現可能性の把握が可能となる。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	防災資器材倉庫の建替え・新規設置に係る交付額				単 位	千円
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1,500	R7	目標	3,000	3,000	1,500	1,500
				実績	2,029	1,243	597	1,280
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
		実績	193	423	557	0		
		指標の選定理由及び目標値の理由						
防災資器材倉庫の建替え・新規設置に係る助成金の予算額に対して、予算額に見合った交付額であるかを把握する。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		今後、倉庫設置の建替えが一巡し、交付申請が少なくなる可能性があるため、予算の見直しの必要がある。						

課題・問題点
老朽化が進んでいる倉庫が増えた点。

施 策	策 412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位	
事 業 名	要配慮者対策事業					8	
目 的	災害時に自力で避難することが難しい要配慮者の迅速かつ円滑な避難誘導態勢の整備を推進する。					主管課・係（担当）	
						防災課防災係	
						03-5608-6206	
対 象 者	住民防災組織(町会・自治会)、避難行動要支援者						
根 拠 法 令 関 連 計 画	災害対策基本法、避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針、墨田区避難行動要支援者名簿の情報の提供等に関する条例・条例施行規則、墨田区要配慮者避難支援プラン、墨田区住民防災組織要配慮者避難支援等活動助成金交付要綱						
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤4		
事 業 内 容	・ 避難行動要支援者名簿の作成及び関係者への提供 登載要件に該当する方を抽出した避難行動要支援者名簿を作成し、警察、消防、民生委員等に平常時から提供する。なお、令和5年度から、社会福祉協議会・消防団への提供に関する意向確認を実施する。 ・ 福祉専門職を活用した個別避難計画作成 居住区域及び本人の状態により対象者を抽出し、個別避難計画を作成する。 ・ 共助による要配慮者個別避難支援プラン作成の促進 災害時における「要配慮者個別避難支援プラン」作成支援マニュアルを公開し、共助によるプラン作成を支援する。						
経 過	開始年度	令和2年度			終了予定		
	【令和2年度】 墨田区住民防災組織要配慮者避難支援等活動助成金交付要綱制定 墨田4～5丁目において避難支援プラン作成モデル実施 【令和3年度】 避難支援プラン作成モデル事業：八広4～6丁目、東墨田1～3丁目を実施区域に追加 【令和4年度】 避難支援プラン作成モデル事業：墨田2～3丁目、東向島5～6丁目を実施区域に追加、作成支援マニュアル策定 墨田区避難行動要支援者名簿の情報の提供等に関する条例・条例施行規則制定 福祉専門職を活用した個別避難計画作成：モデル実施 【令和5年度～】 避難支援プラン作成モデル事業：区内全域を実施区域とする 避難行動要支援者名簿外部提供に関する意向確認調査を開始 福祉専門職を活用した個別避難計画作成を本格実施						
議 会 質 問 の 状 況							
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) ・介護保険課、高齢者福祉課、障害者福祉課(個別避難計画作成における福祉専門職との連絡調整、執行委任)						

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）			400	576	676	15,833	12,893
A.決算額（令和6年度は見込み）			289	343	263	14,497	12,893
財 源	国						
	都					201	375
	その他						
一般財源			289	343	263	14,296	12,518
執行率（%）			72.3%	59.5%	38.9%	91.6%	100.0%
B.人コスト				5,277	4,907	6,810	
総事業決算額（A+B）		0	289	5,620	5,170	21,307	
予算書P（令和6年度）		p95 28		執行実績報告書P（令和5年度）		P32 29	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
役務費	郵送料	11	需用費	ベッド等購入	1,992	需用費	ベッド等購入	2,060
委託料	個別避難計画	131	役務費	郵送料	3,298		資器材（サポート隊結成時）	1,080
負担金補助及び交付金	個別避難支援プラン	121	委託料	システム改修	660		資器材（サポート隊交付）	3,500
				同意確認作業	8,041	役務費	郵送料	542
				個別避難計画	100	委託料	同意確認作業	3,960
			使用料及び賃借料	施設使用料	4		個別避難計画	1,001
			負担金補助及び交付金	個別避難支援プラン	402	負担金補助及び交付金	個別避難支援プラン	750

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	避難支援プラン作成町会・自治会数				単位	団体
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		100	令和9年度	目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	4	9	13	38	53	70
		実績	4	7	7	5		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	令和4年度までは早期の立退き避難が必要な区域でモデル実施。令和5年度以降は区内全域に事業を周知し実施町会・自治会を増やしていく。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	計画作成件数（個別避難計画、避難支援プラン）				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		2,000	令和9年度	目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	200	450	650	860	1,160	1,500
		実績	85	67	31	252		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	個別避難計画、避難支援プランを指標とすることで、要支援者の災害時の避難方法が確立していることを確認できる。なお避難支援プランについては、一つの町会につき20件の作成を想定している。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	避難支援プランについては、共助の取組として区内全域で展開できるよう、令和5年3月に作成した作成支援マニュアルを活用し、引き続き各町会・自治会への啓発等を行う。また、要配慮者支援に必要な資機材を交付することで、サポート隊の活動を活性化させる。個別避難計画については、居住区域及び本人の状態により対象者を抽出し、段階的に作成を進めていく。

課題・問題点
支援の担い手不足、避難先の確保が課題であり、さらに関係者・庁内との連携のもと事務を進めていく。

補助金 名称	墨田区住民防災組織要配慮者避難支援等活動助成金				主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区住民防災組織要配慮者避難支援等活動助成金交付要綱				防災課防災係	
補助概要	個別支援プランを作成した件数に応じて助成金を交付する。				03-5608-6206	
目的	現在、課題となっている個別支援プランの作成について、助成金制度を活用して共助の観点から計画の作成を促進し、要配慮者の避難体制を確保する。					
対象	住民防災組織					
基準	区独自基準					
補助条件	・ 要配慮者サポート隊が結成されていること ・ 個別支援プランを作成した場合					
経過	開始年度	令和2年度		終了予定		
	【令和2年度】 墨田区住民防災組織要配慮者避難支援等活動助成金交付要綱制定 墨田4～5丁目において実施 【令和3年度】 八広4～6丁目、東墨田1～3丁目を実施区域に追加 【令和4年度】 墨田2～3丁目、東向島5～6丁目を実施区域に追加 【令和5年度】 区内全域を実施区域とする					
議会質問 の状況						
その他 特記事項						

予算・決算額推移（千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算額（事業費）			205	450	420	1,000	750
決算額（令和6年度は見込み）			205	217	121	402	750
財源	国						
	都					201	375
	その他						
一般財源		0	205	217	121	201	375
執行率（％）		#DIV/0!	100.0%	48.2%	28.8%	40.2%	100.0%

補 助 金 の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	避難支援プラン作成町会・自治会数				単 位	団 体
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		100	令和9年度	目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	4	9	13	38	53	70
		実績	4	7	7	5		
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		令和4年度までは早期の立退き避難が必要な区域でモデル実施。令和5年度以降は区内全域に事業を周知し実施町会・自治会を増やしていく。						
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	計画作成件数（個別避難計画、避難支援プラン）				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		2,000	令和9年度	目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	200	450	650	860	1,160	1,500
		実績	85	67	31	252		
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		個別避難計画、避難支援プランを指標とすることで、要支援者の災害時の避難方法が確立していることを確認できる。なお避難支援プランについては、一つの町会につき20件の作成を想定している。						

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	避難支援プランについては、共助の取組として区内全域で展開できるよう、令和5年3月に作成した作成支援マニュアルを活用し、引き続き各町会・自治会への啓発等を行う。また、要配慮者支援に必要な資機材を交付することで、サポート隊の活動を活性化させる。個別避難計画については、居住区域及び本人の状態により対象者を抽出し、段階的に作成を進めていく。

課題・問題点
支援の担い手が不足している。

施 策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位
事 業 名	大規模水害対策の推進					9
目 的	大規模水害への対応を図ることにより、水害への知識を正しく理解し、安心して暮らしていくとともに、いざというときに安全に避難できるようにする。					主管課・係（担当）
						防災課防災係
						03-5608-6206
対 象 者	荒川が氾濫した際に浸水する地域に居住する区民等					
根 拠 法 令 関 連 計 画	水害時における避難受入れに関する協定に伴う防災対策用資器材交付要綱					
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤3	
事 業 内 容	・江東5区広域避難推進協議会 大規模水害に対して同様のリスクを抱える江東5区（墨田、江東、足立、葛飾、江戸川区）で、その対策を検討するため「江東5区広域避難推進協議会」を設置し、浸水しない地域への広域避難の実現に向けて、協議する。 ・協定を締結したマンション管理組合への資器材の交付 水害時の避難場所の提供について協定を締結したマンション管理組合へ水害対策資器材を交付する。 ・墨田区水害ハザードマップ改定・配布 区民の水防に対する意識の向上と、区の減災を図ることを目的としたハザードマップの改定・全戸配布を行う。					
経 過	開始年度	平成27年度			終了予定	
	[平成27年度]「江東5区大規模水害対策協議会」を設置 [平成28年度]「水害時における避難受入れに関する協定に伴う防災対策用資器材交付要綱」を制定 「江東5区大規模水害避難等対応方針」を策定 「江東5区広域避難推進協議会」を設置 [平成30年度]「江東5区大規模水害広域避難計画」及び「江東5区大規模水害ハザードマップ」を作成 [令和元年度] 台風19号の対応にあたり広域避難について検討したが、実施を見送る。 [令和3年度] 墨田区水害ハザードマップ改定 [令和4年度] 墨田区水害ハザードマップ全戸配布 [令和5年度] 東京都と連携した啓発活動を実施(我が家の診断リスク診断書の配布)					
議 会 質 問 の 状 況	[平成30年2定]広域避難の必要性の周知について [平成30年3定]江東5区大規模水害広域避難計画について [平成30年4定]広域避難に係る他自治体との連携について [令和元年10月災害対策特別委員会]広域避難と垂直避難について [令和3年3月予算特別委員会]広域避難の実現可能性について [令和3年7月災害対策特別委員会]広域避難について（避難者数255万人→74万人等、質問多数） [令和3年12月基本計画調査特別委員会]広域避難先の場所選定について [令和4年1月予算特別委員会]マンションと町会間の垂直避難協定の締結をサポートする仕組みについて					
そ の 他 特 記 事 項						

予算・決算額推移(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額(事業費)		3,134	3,790	32,012	11,342	4,082	4,302
A.決算額(令和6年度は見込み)		2,061	2,226	31,608	8,371	3,285	4,302
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		2,061	2,226	31,608	8,371	3,285	4,302
執行率(%)		65.8%	58.7%	98.7%	73.8%	80.5%	100.0%
B.人コスト		4,369	4,411	5,277	4,907	6,810	
総事業決算額(A+B)		6,430	6,637	36,885	13,278	10,095	
予算書P(令和6年度)		P90 5		執行実績報告書P(令和5年度)		P28 5	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	協定締結団体への物品交付	229	需用費	協定締結団体への物品交付	203	需用費	協定締結団体への物品交付	1,000
役務費	ハザードマップ全戸配布	5,082	役務費	ハザードマップ全戸配布	132	役務費	ハザードマップ全戸配布	132
委託料	ピクトグラム作成	299	負担金補助及び交付金	江東5区分担金	2,950	負担金補助及び交付金	江東5区分担金	3,170
負担金補助及び交付金	江東5区分担金	2,761						

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	水害時の避難場所の提供について協定を締結している事業所や集合住宅の数(累計)				単位	団体
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		45	令和7年度	目標	10	14	18	22
				実績	10	16	17	24
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	26	30	34	38	42	45
		実績	26	30	30	32		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	大規模水害時、墨田区は区内全域が浸水する想定のため、区外へ広域避難することが前提となるが、区民等の生命を守るため、広域避難ができなかった人々が緊急的に避難する場所を確保する必要があるため。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	住民意識調査「震災時や大規模水害時の被害想定と避難方法」で「大雨や荒川の氾濫等による大規模な水害時の避難方法等を知っている」と回答した割合				単位	%
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		50	令和7年度	目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	50		50		50	
		実績	33		34.2			
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	大規模水害時には、墨田区は区内全域が浸水する想定のため、区民が適切な避難方法等を知っている必要があるため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	- 協定を締結したマンション管理組合への資器材の交付 広域避難が前提となるため、垂直避難は推奨しないが、緊急時に備えて、引き続き避難場所の確保に努める。 - 江東5区広域避難推進協議会 広域避難の実現に向けて、国や都と協力し、避難場所や避難方法について、引き続き協議していく。

課題・問題点
- 広域避難の必要性について、区民等の認識の向上に努めていく必要がある。 - 江東5区全体で約250万人が浸水地域に居住するため、避難場所の確保に向けて、国や都と協力し、調整していかなければならない。

施 策	策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位			
事 業 名	災害医療体制の整備						10			
目 的	災害時における医療体制の充実・強化を図るため、各医師会等との連絡調整を行うことを目的とした災害医療運営連絡会を開催するとともに、災害時に必要となる医療器具や医薬品等の整備及び救命措置技術習得のための普通救命講習会を行う。						主管課・係（担当）			
							防災課防災係			
							03-5608-6206			
対 象 者	(災害医療体制)大規模災害発生時に区内にいる負傷者等、災害時医療従事者等 (普通救命講習会)町会員、区職員等									
根 拠 法 令	・東京都地域防災計画・災害時医療救護活動ガイドライン(都福祉保健局)・墨田区地域防災計画									
関 連 計 画	・墨田区災害医療運営連絡会設置要綱・墨田区災害時医療救護活動従事者登録制度運営要綱									
実 施 基 準	区独自基準		実施方法		直営		人員体制・委託先		常勤4	
事 業 内 容	・災害医療運営連絡会の開催 ・災害医療救護者証の発行 ・応急救護セットの保守点検 ・普通救命講習会の開催									
経 過	開始年度		昭和51年以前				終了予定			
	【昭和51年度】学校等に災害用医療救護品を配備する。 【昭和60年度】携帯用の災害医療バックを各医師に配備する。 【平成元年度】都災対指定「救急医療セット」を配備する。 【平成18年度】医師会に配布した災害医療バックを回収し、学校等に配備していた災害用医療救護品と統合し、配備する。(＝応急救護セット) 【平成19年度】墨田区災害時医療救護活動従事者制度を開始し、医療救護者証の配付を始める。 【令和元年度】緊急医療救護所制度の確立に伴い、「救急医療セット」を廃止する。 【令和2年度】指定避難所に配備している応急救護セットの内容を見直す。 【令和5年度】要配慮者の避難場所として民泊施設を活用するため、Airbnb Japan株式会社と「災害時における民泊施設提供の協力に関する協定」を締結。									
議 会 質 問 の 状 況										
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) ・災害医療体制については、保健計画課と連携して行っている。 ・配備中の医療品目については、品目を精査していく。									

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		6,910	2,146	2,138	2,611	1,018	1,375
A.決算額（令和6年度は見込み）		3,176	1,516	1,675	1,597	833	1,375
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		3,176	1,516	1,675	1,597	833	1,375
執行率（%）		46.0%	70.6%	78.3%	61.2%	81.8%	100.0%
B.人コスト		874	2647	3,518	3,272	3,405	
総事業決算額（A+B）		4,050	4,163	5,193	4,869	4,238	
予算書P（令和6年度）		p92 17		執行実績報告書P（令和5年度）		P30 17	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
報償費	災害医療運営連絡会謝礼	0	報償費	災害医療運営連絡会謝礼	0	報償費	災害医療運営連絡会謝礼	90
需用費	医薬品交換	1,159	需用費	医薬品交換	291	需用費	医薬品交換	320
	救命講習テキスト	139		救命講習テキスト	163		救命講習テキスト	600
	救護者証印刷	299		救護者証印刷	379		救護者証印刷	365

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	普通救命講習実施回数				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		10	令和7年度	目標	10	10	10	10
				実績	11	10	10	8
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	10	10	10	10	10	10
		実績	5	5	4	3		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	普通救命講習の認定期限は3年であり、各施設や町会、臨時非常配備等の方に3年おきに受講してもらっている。そして、常に認定の期限がきれない仕組みを作りだすため、毎年講習会を行っている。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	普通救命講習受講者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		300	令和7年度	目標	300	300	300	300
				実績	307	225	103	136
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	300	300	300	300	300	300
		実績	118	100	95	111		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	上記理由より、講習認定者を一定数以上保つことが必要である。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	医療資器材等の配備については、品目・数量等順次見直しを行う必要があるので、医師会等との調整を継続的に行う必要がある。

課題・問題点
●医療資器材等の備蓄について 医療資器材の備蓄は、品目・数量・配備場所等を考慮する必要があり、都の計画や医師会等との調整、保健計画課との連携の中で意思決定が行われるので、調整事務が煩雑になりがちである。

施 策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位
事 業 名	防災思想の啓発					11
目 的	継続的に防災知識の普及、啓発を図る。					主管課・係（担当）
						防災課防災係
						03-5608-6206
対 象 者	区民、関係機関、区内事業者					
根 拠 法 令 関 連 計 画	墨田区地域防災基本条例					
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤5	
事 業 内 容	墨田区地域防災基本条例により、区民の防災意識の高揚を図るため、防災パンフレット等の作成を行っている。					
経 過	開始年度	昭和49年			終了予定	
	[昭和49年度] 全世帯へ「地震に備えて」を配布 [平成26年度] 全世帯へ「墨田区防災マップ」を配布 [平成30年度] 「地震に備えて(集合住宅にお住まいの方へ)」・障がい者向け防災冊子「いざという時のために」を作成・配布 [令和元年度] すみだ防災ガイド(事業所編)を改訂・配布 [令和4年度] 避難場所の見直しに伴い「墨田区防災マップ」を改訂、当該居住世帯へ「墨田区防災マップ」を配布 ※開始年度より、随時、防災冊子を作成・増刷している。					
議 会 質 問 の 状 況						
そ の 他 特 記 事 項						

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		2,445	567	1,421	5,820	8,123	8,475
A.決算額（令和6年度は見込み）		2,155	416	1,004	5,444	5,387	8,475
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		2,155	416	1,004	5,444	5,387	8,475
執行率（%）		88.1%	73.4%	70.7%	93.5%	66.3%	100.0%
B.人コスト		3,495	3,529	3,518	3,272	3,405	
総事業決算額（A+B）		5,650	3,945	4,522	8,716	8,792	
予算書P（令和6年度）		P92 15（4）		執行実績報告書P（令和5年度）		P29 15(4)(5)	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	啓発品購入費・パンフレット作成費	4,996	需用費	啓発品購入費・パンフレット作成費	5,245	需用費	啓発品購入費・パンフレット作成費	8,272
役務費	通信運搬費	387	役務費	通信運搬費	81	役務費	通信運搬費	81
委託料	版下作成費	61	委託料	版下作成費	61	委託料	版下作成費	122

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	墨田区地震ガイドブックの配布 ※R5以前は防災パンフレット「地震に備えて」の配布数。				単 位	冊
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		12000	R7	目標	10,000	10,000	12,000	12,000
				実績	10,000	18,000	12,000	12,000
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
		実績	100	2,150	510	12, 430		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	防災パンフレット等を作成し、広く区民等へ配布することで、防災意識の高揚につながるため。 ただし、R2年度よりペーパーレスの促進として全戸配布（転入者等への配布）を辞め、HPでの情報発信を行う。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	住民意識調査「家庭で行っている防災対策・特にしていない」と回答した割合				単 位	%
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		0	R7	目標	20		18	
				実績	20		24	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	15		10		5	0
		実績	14		13			
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	民意識調査における「家庭で行っている防災対策」の中で、飲料水や食糧の確保をしている方が約半数ほどいるが、それに対して、特にしていない家庭も13%いる。特にしていない家庭の割合を減らすことで、少しでも、防災対策に取り組むように防災思想の啓発を行う。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	紙媒体によるパンフレット等は、コストダウンは困難である。今後は、インターネット等紙媒体以外の普及に伴うデジタル媒体での啓発も検討する必要がある。なお、これまで対象者毎に啓発パンフレットを作成してきたが、冊子毎に内容が重複していることから、令和5年度に冊子をまとめた「（仮称）地震ハザードマップ（ガイドブック）」を作成し、広く周知していく。

課題・問題点
自助・共助による防災対策の強靱化を図るためにも、本事業により、区の課題について周知を継続していく必要があるが、若年層の防災意識の喚起・啓発が必要課題であるとともに、困難な部分である。

施 策	策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位	
事 業 名	防災士育成事業						12	
目 的	区からの助成により、日本防災士機構が認定する防災士資格を取得し、平常時及び災害時に区の防災施策に積極的に携わっている。						主管課・係（担当）	
							防災課防災係	
							03-5608-6206	
対 象 者	日頃から地域防災活動に取り組んでいる区民、協定締結団体等							
根 拠 法 令 関 連 計 画	墨田区防災士ネットワーク協議会設置要綱							
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先			常勤5	
事 業 内 容	日本防災士機構が認定する防災士の資格取得費用を助成するなど、「墨田区防災士ネットワーク協議会」を設置・運営のもと、地域防災力の向上を図るため、防災士を地域の防災訓練等に派遣し、防災啓発活動に協力していただく。							
経 過	開始年度	平成30年度			終了予定			
	[平成30年度] 「防災士養成講座」を開催のもと、51名が防災士の資格を取得・研修の実施 [令和元年度] 「墨田区防災士ネットワーク協議会」を設立 東日本大震災の被災地を視察するスタディツアーの実施 [令和2年度] 「防災士養成講座」を開催のもと、41名が防災士の資格を取得 [令和3年度] 一般公募により7名の防災士が墨田区防災士ネットワーク協議会に加入 荒川治水資料館へのスタディツアー実施 5つの分科会を設置 [令和4年度] 荒川第一調節池（彩湖）へのスタディツアー実施 [令和5年度] 宮城県岩沼市・福島県南相馬市へのスタディツアー実施							
議 会 質 問 の 状 況	[平成30年1定] 資格取得後の活動について [平成30年予特] 資格取得後の活動について [平成31年予特] 協議会の活動について [令和元年決特] 台風19号における防災士の活動について							
そ の 他 特 記 事 項								

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		2,795	3,095	964	579	3,209	2,172
A.決算額（令和6年度は見込み）		1,703	2,432	477	144	1,539	2,172
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		1,703	2,432	477	144	1,539	2,172
執行率（%）		60.9%	78.6%	49.5%	24.9%	48.0%	100.0%
B.人コスト		3,495	2,647	5,277	4,907	10,214	
総事業決算額（A+B）		5,198	5,079	5,754	5,051	11,753	
予算書P（令和6年度）		P92 15（1）		執行実績報告書P（令和5年度）		P29 15(1)	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
旅費	スタディツアー帯同費	0	旅費	スタディツアー帯同費	7	旅費	スタディツアー帯同費	93
委託料	スタディツアー実施委託	0	委託料	スタディツアー実施委託	1,308	委託料	スタディツアー実施委託	1,549
負担金補助及び交付金	協議会助成金	144	負担金補助及び交付金	協議会助成金	201	負担金補助及び交付金	協議会助成金	500
			需用費	新規会員用消耗品費	23	需用費	新規会員用消耗品費	30

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	墨田区防災士ネットワーク協議会加入の会員数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		120	令和7年度	目標	-	-	50	-
				実績			51	51
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	100	100	105	110	115	120
		実績	91	97	96	99		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	避難所運営に協力できる防災士が増加するなど、協議会の活動範囲が広がり、地域の防災力が向上するため。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	訓練等への防災士の派遣延べ人数(1回4時間以内)				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		200	令和7年度	目標				100
				実績				60
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	100	120	140	160	180	200
		実績	0	9	20	75		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	防災士を訓練等へ派遣する回数が増加することで、防災士の有する知識を住民等へより浸透させることができるため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	今後も、防災訓練や地域防災活動拠点会議への防災士派遣を通じて、地域の防災力強化へつなげる。

課題・問題点
防災士が平時より活動していただけるような機会を提供できるよう、その開拓をしていかなければならない。 また、女性や若者の防災士が少ないため、加入していただくよう働きかける必要がある。

補助金 名 称	墨田区防災士ネットワーク協議会活動助成金				主管課・係（担当）	
根 拠 法 令	墨田区防災士ネットワーク協議会設置要綱				防災課防災係	
補 助 概 要	墨田区防災士ネットワーク協議会が、地域防災力の向上を目的にして、防災啓発活動をするための活動経費を助成している。				03-5608-6206	
目 的	墨田区防災士ネットワーク協議会の会員が、防災士としての知識等を生かして活動することで、地域防災力の向上を図る。					
対 象	墨田区防災士ネットワーク協議会					
基 準	区独自基準					
補 助 条 件	墨田区防災士ネットワーク協議会が実施する事業					
経 過	開始年度	令和元年度		終了予定		
	[平成30年度] 「防災士養成講座」を開催のもと、51名が防災士の資格を取得・研修の実施 [令和元年度] 「墨田区防災士ネットワーク協議会」を設立 東日本大震災の被災地を視察するスタディツアーの実施 [令和2年度] 「防災士養成講座」を開催のもと、41名が防災士の資格を取得 [令和3年度] 一般公募により7名の防災士が墨田区防災士ネットワーク協議会に加入 荒川治水資料館へのスタディツアー実施 5つの分科会を設置 [令和4年度] 荒川第一調節池（彩湖）へのスタディツアー実施					
議 会 質 問 の 状 況	[平成30年1定] 資格取得後の活動について [平成30年予特] 資格取得後の活動について [平成31年予特] 協議会の活動について [令和元年決特] 台風19号における防災士の活動について [令和5年地域産業・企画総務] 資格取得後の防災士の活動について、防災士の増員について					
そ の 他 特 記 事 項						

予算・決算額推移（千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算額（事業費）			500	500	500	500	500
決算額（令和6年度は見込み）			41	151	144	201	500
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		0	41	151	144	201	500
執行率（％）		#DIV/0!	8.2%	30.2%	28.8%	40.2%	100.0%

補助金の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	墨田区防災士ネットワーク協議会加入の会員数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		120	令和7年度	目標	-	-	50	-
				実績			51	51
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	100	100	105	110	115	120
		実績	91	97				
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		避難所運営に協力できる防災士が増加するなど、協議会の活動範囲が広がり、地域の防災力が向上するため。						
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	訓練等への防災士の派遣延べ人数（1回4時間以内）				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		200	令和7年度	目標				100
				実績				60
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	100	120	140	160	180	200
		実績	0	9	20			
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		防災士を訓練等へ派遣する回数が増加することで、防災士の有する知識を住民等へより浸透させることができるため。						

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	今後も、防災訓練や地域防災活動拠点会議への防災士派遣を通じて、地域の防災力強化へつなげる。

課題・問題点
防災士が平時より活動していただけるような機会を提供できるよう、その開拓をしていかなければならない。

施 策	策 412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位
事 業 名	総合防災訓練					13
目 的	地震等災害時における円滑な応急活動体制を確保するため、区をはじめ、防災関係機関及び地域住民との密接な連携の下に総合防災訓練を実施し、技術の向上と防災意識の高揚を図る。					主管課・係（担当）
						防災課 防災係
						03-5608-6206
対 象 者	防災関係機関、区民（来場者）町会・自治会、災害協定団体等、区職員					
根 拠 法 令 関 連 計 画	災害対策基本法第48条					
実 施 基 準	法令基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	常勤5、非常勤1、委託先:アド福助等	
事 業 内 容	社会状況やニーズを踏まえ、防災関係機関はもとより、地域住民が参加する総合防災訓練を実施する。 なお、令和5年度、以下の内容を予定している。 Ⅰ 区立錦糸公園（野球場）にて （1）災対各部及び関係機関により防災普及啓発ブースを展開 （2）初期消火訓練等の区民参加型訓練 Ⅱ 区立錦糸公園（プロムナード）にて 関係機関による車両展示 Ⅲ 総合体育館にて （1）区、関係機関等による図上訓練 （2）自主防災組織等による避難所開設訓練					
経 過	開始年度	昭和55年度			終了予定	
	【昭和55年度～】総合防災訓練開始 【平成21年度】1,562名参加（墨田五丁目運動広場一帯、日曜日実施）【平成22年度】1,715名参加（墨田五丁目運動広場一帯、日曜日実施） 【平成23年度】1,913名参加（墨田五丁目運動広場一帯、日曜日実施）【平成24年度】2,372名参加（墨田五丁目運動広場一帯、日曜日実施） 【平成25年度】2,019名参加（墨田五丁目運動広場一帯、日曜日実施）【平成26年度】2,148名参加（墨田五丁目運動広場一帯、日曜日実施） 【平成27年度】2,060名参加（墨田五丁目運動広場一帯、日曜日実施）【平成28年度】3,779名参加（区立錦糸公園外、日曜日実施） 【平成29年度】4,009名参加（区立錦糸公園、日曜日実施）【平成30年度】台風のため中止 【令和元年度】5,042名参加（区立錦糸公園外、日曜日実施）【令和2年度】新型コロナウイルス感染防止のため中止 【令和3年度】321名参加 新型コロナウイルス感染防止のため規模を縮小し、避難所訓練を実施（区立総合体育館、11月第三日曜日実施） 【令和4年度】2,896名参加（区立錦糸公園及び区立梅若小学校、11月第三日曜日実施） 【令和5年度】3,243名参加（区立錦糸公園及び墨田区総合体育館、11月第三日曜日実施）					
議 会 質 問 の 状 況						
そ の 他 特 記 事 項						

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		12,871	4,977	11,163	14,559	15,152	15,978
A.決算額（令和6年度は見込み）		11,717	61	8,484	13,358	14,115	15,978
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		11,717	61	8,484	13,358	14,115	15,978
執行率（%）		91.0%	1.2%	76.0%	91.8%	93.2%	100.0%
B.人コスト		14, 854	15, 006	15, 832	14, 722	15, 321	
総事業決算額（A+B）		26, 571	15, 067	24, 316	28, 080	29, 436	
予算書P（令和6年度）		P 95 24		執行実績報告書P（令和5年度）		P31 25	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
報償費	医師等訓練参加費	0	報償費	医師等訓練参加費	232	報償費	医師等訓練参加費	450
職員手当	時間外手当	1424	職員手当	時間外手当	1,787	職員手当	時間外手当	2,205
需用費	消耗品購入費等	400	需用費	消耗品購入費等	673	需用費	消耗品購入費等	863
役務費	通信運搬費	19	役務費	通信運搬費	26	役務費	通信運搬費	26
委託料	会場設営費等	11,326	委託料	会場設営費	10,792	委託料	会場設営費	11,773
使用料及び賃借料	会場使用料等	189	使用料及び賃借料	会場使用料等	605	使用料及び賃借料	会場使用料等	661

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	訓練参加団体数				単 位	団体
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		62	令和7年度	目標	45	48	50	52
				実績	46	58	-	54
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	54	56	58	60	62	62
		実績	-	21	41	47		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	災害に対して各機関の連携を確認する機会として一定数以上の団体が参加することが望ましい。また、参加する団体が増えることで訓練の実効性が確保される。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	訓練参加人数(延べ人数)				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		5,000	令和7年度	目標	3,700	4,000	4,200	4,400
				実績	3,779	4,009	-	5,042
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	4,600	4,800	5,000	5,000	5,000	5,000
		実績	-	321	2,896	3,243		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	防災に係る技術の向上と意識の高揚を図るため、区民参加型の訓練を取り入れることで、実効性のある防災訓練とする。訓練の参加人数が増えることで区民の防災意識がより浸透していくと考えられる。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	会場を変更して来場者が増えたことで、一定の効果が得られている。 今後については過去の災害、訓練の反省を踏まえ、より実効性の高い訓練を実施していく。

課題・問題点
平成30年度は「水害」、令和元年度は「液体ミルク」等と、区民の関心の高い内容を反映し、訓練を実施しているが、今後も、ニーズを的確にとらえ、区民の防災意識向上に向け、普及・啓発など柔軟に発信していく必要がある。令和6年度は、協定団体との連携を強化するため、避難所開設訓練に参加を促す予定である。引き続き関係機関との災害時の連携強化に努めていく必要がある。

施 策	策 412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位
事 業 名	区民消火隊					14
目 的	大地震時に避難路の確保及び初期消火態勢の確立を図るため、区民消火隊を育成するとともに、消火隊相互の連携を促進し、地域の防災態勢の充実を目的とする。					主管課・係（担当）
						防災課防災係
						03-5608-6206
対 象 者	各町会、自治会					
根 拠 法 令 関 連 計 画	墨田区区民消火隊訓練助成金交付要綱					
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤4	
事 業 内 容	昭和47年に、災害時における初期消火及び延焼拡大防止等を目的として、避難道路近辺の町会の協力を得て、東京都により「市民消火隊」として結成され、昭和54年に墨田区へ移管し、「区民消火隊」として運営されてきた。平成7年の阪神・淡路大震災を契機に、「住民防災組織」の中心的存在として、地元消防署と役割分担をしつつ事業を進めている。消火隊の活動について年1回の隊長会議を開催し、災害に備えた日頃の訓練等についての意見交換を行っている。					
経 過	開始年度	昭和47年			終了予定	
	【平成2・3年度】ブロック合同点検 【平成4年度】20周年記念式典実施 【平成7・8・9年度】小型消防ポンプ購入 【平成8年度】住民防災組織（区民消火隊）ポンプ操法マニュアル作成 【平成21年度】区民消火隊区移管30周年記念感謝状贈呈式実施 【平成24年度～】小型消防ポンプ5台更新・格納庫2棟更新 【平成28年度～】小型消防ポンプ3台更新・格納庫2棟更新 【令和元年度】区民消火隊区移管40周年記念感謝状贈呈式実施 【令和3年度】小型消防ポンプ3台更新 【令和4年度】小型消防ポンプ1台更新・格納庫2棟更新 【令和5年度】小型消防ポンプ3台更新・格納庫2棟更新					
議 会 質 問 の 状 況						
そ の 他 特 記 事 項						

予算・決算額推移(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額(事業費)		13,006	11,994	12,446	9,090	13,907	13,690
A.決算額(令和5年度は見込み)		11,897	10,919	7,255	8,210	12,806	13,690
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		11,897	10,919	7,255	8,210	12,806	13,690
執行率(%)		91.5%	91.0%	58.3%	90.3%	92.1%	100.0%
B.人コスト		4,369	5,293	4,398	4,089	4,256	
総事業決算額(A+B)		16,266	16,212	11,653	12,299	17,062	
予算書P(令和6年度)		P90 14(1)		執行実績報告書P(令和5年度)		P29 14(1)	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	消耗品購入・ポンプ修繕	1,078	需用費	消耗品購入・ポンプ修繕	1,808	需用費	消耗品購入・ポンプ修繕	1,850
役務費	事務連絡費	31	役務費	事務連絡費	275	役務費	事務連絡費	434
委託料	ポンプ保守点検	670	委託料	ポンプ保守点検	797	委託料	ポンプ保守点検	894
備品購入費	ポンプ購入	2,625	備品購入費	ポンプ購入	6,325	備品購入費	ポンプ購入	6,432
負担金補助及び交付金	訓練助成金	3,806	負担金補助及び交付金	訓練助成金	3,601	負担金補助及び交付金	訓練助成金	4,080

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	消防ポンプ配備数				単 位	台
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		59	令和7年度	目標	59	59	59	59
				実績	59	55	54	54
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	59	59	59	59	59	59
		実績	54	53	51	51		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	各消火隊に消防ポンプを配備することで、災害時における初期消火及び延焼拡大防止を実施できるよう、初期消火体制の確立に努めている。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	消火隊訓練回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		330	令和7年度	目標	330	330	330	330
				実績	367	552	547	549
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	330	330	330	330	330	330
		実績	405	437	493	518		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	ポンプの配備や整備により、平常時に消火訓練を円滑に行うことができる。なお、現在51隊ある消火隊が年間6回以上訓練することを目標としている。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	引き続き、各消火隊の課題を洗い出し、効果的な支援を実施していく必要がある。

課題・問題点
避難道路の変更により、消火隊の位置付けが不明確になっている。 ポンプ、ホース、隊服等が古くなり、装備品の管理に費用がかかる。 実際の震災に対応した、実践的な訓練を実施するのが困難。 高齢化に伴う、消火隊活動の停滞が生じている。

補助金 名称	区民消火隊訓練助成金				主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区区民消火隊訓練助成金交付要綱				防災課防災係	
補助概要	災害時における効果的な防災活動に資するため、区民消火隊が行う訓練に対し、助成を行っている。				03-5608-6206	
目的	区民消火隊は、区民自らが高い意識と行動力により地域を守る組織として重要であり、体制の強化を図るため、活動助成金の交付を行う。					
対象	各区民消火隊（５１隊）					
基準	区独自基準					
補助条件	消火隊の訓練を行うにあたって、行政の支援は欠かすことができないものである。 また、事務処理特例により本業務については、区で行う部分が定められている。 平成３０年度から各消火隊一律の額を助成するのではなく、訓練回数や規模といった条件を鑑みて補助金の額を加算している。					
経過	開始年度	昭和５０年		終了予定		
	「墨田区区民消火隊訓練助成金交付要綱」の規定に基づき、災害時における効果的な防災活動に資するため、区民消火隊が行う訓練に対する助成として、これまで、１隊当たりの助成金額を６万円として交付してきたが、平成２６年度墨田区区民行政評価委員会で示された、各消火隊の活動実績にばらつきがあるとの指摘を踏まえ、区として補助制度を見直した。 日頃から訓練を積極的に実施している消火隊への更なる支援を目的として平成３０年度から１隊当たりの助成金額を前年度の訓練実績に応じたものに変更（平成２９年１月１７日に開催の平成２８年度墨田区区民消火隊々長会議で説明）。					
議会質問 の状況						
その他 特記事項						

予算・決算額推移（千円）		令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
予算額（事業費）		4,400	3,895	4,244	3,815	3,720	4,080
決算額（令和５年度は見込み）		3,860	3,631	3,705	3,806	3,601	4,080
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		3,860	3,631	3,705	3,806	3,601	4,080
執行率（％）		87.7%	93.2%	87.3%	99.8%	96.8%	100.0%

補助金の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	区民消火隊訓練助成金				単位	円
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		4,320,000	令和7年度	目標	3,300,000	3,300,000	3,805,000	4,400,000
				実績	3,300,000	3,300,000	3,805,000	3,860,000
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	3,895,000	4,320,000	4,320,000	4,320,000	4,320,000	4,320,000
		実績	3,630,819	3,705,000	3,806,048	3,600,154		
	目的に対する指標 (成果指標)	指標の選定理由及び目標値の理由						
		消火隊への活動助成が事業の根本である。また、予算額の増大も困難なため、目標は据え置きとしている。						
		指標	消火隊訓練回数				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		330	令和7年度	目標	330	330	330	330
				実績	367	552	547	549
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	330	330	330	330	330	330
		実績	405	437	493	518		
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		ポンプの配備や整備により、平常時に消火訓練を円滑に行うことができる。 なお、現在51隊ある消火隊が年間6回以上訓練することを目標としている。						

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	引き続き、各消火隊の課題を洗い出し、効果的な支援を実施していく必要がある。

課題・問題点
避難道路の変更により、消火隊の位置付けが不明確になっている。 ポンプ、ホース、隊服等が古くなり、装備品の管理に費用がかかる。 実際の震災に対応した、実践的な訓練を実施するのが困難。 高齢化に伴う、消火隊活動の停滞が生じている。

施 策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める			部内優先順位
事 業 名	学校防災活動推進事業				15
目 的	生徒等の学校における防災活動を推進し、地域防災力の向上を図る。				主管課・係（担当）
					防災課・防災係
					03-5608-6206
対 象 者	自主防災組織を結成している中学生、区立中学校1年生				
根 拠 法 令	墨田区地域防災基本条例、墨田区地域防災計画				
関 連 計 画					
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤3
事 業 内 容	「総合的な学習の時間」等で防災教育の副読本として活用してもらうため、「すみだ防災ガイド【中学生用】」を作成し、毎年度、新1年生に配布している。 また、自主防災組織を結成している中学校には、活動に必要な資器材等の支給をし継続的な支援を実施している。さらには、上級救命講習の受講についても助成を行っている。 (1)文花中学校(平成20年結成) 「文中ジュニア・レスキュー」 (2)竪川中学校(平成22年結成) 「竪川RESCUE」 (3)錦糸中学校(平成22年結成) 「錦糸自主防衛隊」 (4)桜堤中学校(平成25年結成) 「桜堤火消し隊」 (5)吾孺立花中学校(平成26年結成) 「吾孺立花レンジャー隊」 (6)吾孺第二中学校(平成30年結成) 「ボランティア防災部」 (7)両国中学校(令和2年結成) 「両中JSB」				
経 過	開始年度	平成18年度		終了予定	
	【平成18年度】「すみだ防災ガイド～中学生用～」作成 【平成22年度】資器材交付の開始 【平成23年度】上級救命講習テキスト代助成の開始 【平成22年度、平成25年度、平成29年度、令和2年度】「すみだ防災ガイド～中学生用～」改訂				
議 会 質 問 の 状 況					
そ の 他 特 記 事 項					

予算・決算額推移(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額(事業費)		279	794	475	368	475	475
A.決算額(令和6年度は見込み)		223	578	175	365	212	475
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		223	578	175	365	212	475
執行率(%)		79.9%	72.8%	36.8%	99.2%	44.6%	100.0%
B.人コスト		1,748	1,764	2,639	2,454	2,554	
総事業決算額(A+B)		1,971	2,342	2,814	2,819	2,766	
予算書P(令和6年度)		P92 15(3)		執行実績報告書P(令和5年度)		P29 15(3)	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	資器材交付費	365	需用費	資器材交付費	212	需用費	資器材交付費	475

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	防災ガイド(中学生用)配布数量				単 位	冊
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		1500	令和7年度	目標	1500	1500	1500	1500
				実績	1452	1403	1401	1497
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1500	1500	1500	1500	1500	1500
		実績	1428	1438	1494	1450		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	中学生への防災意識の啓発にはパンフレット等による教育が効率的と考え、中学生が防災に対して高い意識を持った状態とするため。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	中学生自主防災組織数				単 位	隊
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		10	令和7年度	目標	5	5	6	7
				実績	5	5	6	6
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	7	7	8	8	9	10
		実績	7	7	7	7		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	災害時における地域防災力向上において、中学生等の学生が防災意識を高め、地域の住民とともに防災活動を実践することは必要であるため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	地域における次世代の自助・共助による防災の担い手を育成するためにも必要な事業であるため、現状維持のうえ継続する。

課題・問題点
学校と住民防災組織(町会・自治会等)との効果的な連携方法を検討する必要がある。 令和5年度は錦系中学校・千葉大学と協同し、プロトタイプ実証実験支援事業(産業振興課)参加することで、総合防災訓練にて区民とふれあう機会を設けた。 また、自主防災組織が未結成の中学校があり、引き続き結成の促進を図る。

施 策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位
事 業 名	災害復興対策事業事務					16
目 的	大規模災害による被災を受けた場合に速やかな「暮らしの復興」を円滑に推進するため、地域協働復興の事前対策について、区民等への周知及び専門家との連携を図り、復興支援体制の整備を行う。					主管課・係（担当）
						防災課防災係
						03-5608-6206
対 象 者	大規模災害発生時に居住する区民、所在地が区内にある事業所等					
根 拠 法 令 関 連 計 画	・墨田区地域防災計画・墨田区災害復興基本条例・墨田区災害復興本部の設置及び運営に関する規則 ・墨田区地域協働復興の推進に関する規則・墨田区災害復興支援組織設置要綱					
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤4	
事 業 内 容	墨田区災害復興支援組織の活動支援					
経 過	開始年度	平成10年度			終了予定	
	【平成10年度】墨田区震災復興計画策定指針作成 【平成16年度】墨田区災害復興基本条例制定、「墨田区災害復興マニュアル」を策定 【平成19年度】墨田区災害復興支援組織設置要綱を制定					
議 会 質 問 の 状 況						
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 「東京都震災復興マニュアル」について、都は平成27年度から数年にわたり修正を行っており、その動向を踏まえて墨田区災害復興マニュアルの修正を行う。					

予算・決算額推移(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額(事業費)		613	613	613	613	613	613
A.決算額(令和6年度は見込み)		600	613	611	613	611	613
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		600	613	611	613	611	613
執行率(%)		97.9%	100.0%	99.7%	100.0%	99.7%	100.0%
B.人コスト		874	1,764	2,639	2,454	2,554	
総事業決算額(A+B)		1,474	2,377	3,250	3,067	3,165	
予算書P(令和6年度)		P95 25		執行実績報告書P(令和5年度)		P31 26	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
役務費	郵送料	13	役務費	郵送料	11	役務費	郵送料	13
負担金補助及び交付金	助成金	600	負担金補助及び交付金	助成金	600	負担金補助及び交付金	助成金	600

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	災害復興支援組織登録者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		58	R7	目標	40	42	44	46
				実績	40	40	39	39
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	48	50	52	54	56	58
		実績	39	40	40	40		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	より多くの専門家と連携を図ることにより、幅広い活動及び事前研究等を行うことができるため、指標として選定をした。また、近年の新規登録者数を勘案し、上記を目標値とした。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	災害復興支援組織の活動回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		15	R7	目標	7	7	9	9
				実績	9	21	25	22
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	11	11	13	13	15	15
		実績	14	10	20	12		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	災害復興支援組織の活動が多く行われることにより、区の復興支援体制の充実につながるため、指標として選定をした。また、近年の活動回数を勘案し、上記を目標値とした。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	「東京都震災復興マニュアル」修正に合わせ、「墨田区災害復興マニュアル」改定を検討していく。

課題・問題点
●活動内容の見直し 墨田区災害復興支援組織の活動内容等の見直しを行い、平時より専門能力を生かした活動が提供できるよう、その機会を開拓していかなければならない。

補助金 名称	墨田区災害復興支援組織活動経費助成金				主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区災害復興支援組織設置要綱				防災課防災係	
補助概要	復興期に復興区民組織の活動を支援する専門家で組織する墨田区災害復興支援組織の運営及び育成を図る。				03-5608-6206	
目的	墨田区災害復興支援組織の活動を支援することを通じ、復興期における復興支援体制の整備を行うことを目的とする。					
対象	墨田区災害復興支援組織					
基準	区独自基準					
補助条件	墨田区災害復興支援組織が行う災害復興対策に資する事業に対して助成する。					
経過	開始年度	平成10年度		終了予定		
	[平成10年度] 墨田区震災復興計画策定指針作成 [平成16年度] 墨田区災害復興基本条例制定、墨田区災害復興マニュアルを策定 [平成19年度] 墨田区災害復興支援組織設置要綱を制定					
議会質問 の状況						
その他 特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 「東京都震災復興マニュアル」について、都は平成27年度から数年にわたり修正を行っており、その動向を踏まえて墨田区災害復興マニュアルの修正を行う。					

予算・決算額推移（千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算額（事業費）		600	600	600	600	600	600
決算額（令和6年度は見込み）		600	600	600	600	600	600
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		600	600	600	600	600	600
執行率（％）		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

補助金の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	災害復興支援組織登録者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		58	R7	目標	40	42	44	46
				実績	40	40	39	39
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	48	50	52	54	56	58
		実績	39	40	40	40		
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		より多くの専門家と連携を図ることにより、幅広い活動及び事前研究等を行うことができるため、指標として選定をした。また、近年の新規登録者数を勘案し、上記を目標値とした。						
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	災害復興支援組織の活動回数				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		15	R7	目標	7	7	9	9
				実績	9	21	25	22
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	11	11	13	13	15	15
		実績	14	10	20	12		
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		災害復興支援組織の活動が多く行われることにより、区の復興支援体制の充実につながるため、指標として選定をした。また、近年の活動回数を勘案し、上記を目標値とした。						

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	「東京都震災復興マニュアル」修正に合わせ、「墨田区災害復興マニュアル」改定を検討していく。

課題・問題点
●活動内容の見直し 墨田区災害復興支援組織の活動内容等の見直しを行い、平時より専門能力を生かした活動が提供できるよう、その機会を開拓していかなければならない。

施 策	策 412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位
事 業 名	帰宅困難者対策					17
目 的	東日本大震災では、都内でも多くの帰宅困難者が発生した。帰宅困難者の発生は、救命・救助活動の妨げになるだけでなく、群衆雪崩等の二次災害を発生させるおそれがある。よって予めその対策を検討することで、帰宅困難者による混乱を最小限にする。					主管課・係（担当）
						防災課防災係
						03-5608-6206
対 象 者	・発災時、区内にいる帰宅困難者（滞留者） ・帰宅困難者が発生している周辺に住んでいる区民					
根 拠 法 令 関 連 計 画	東京都帰宅困難者対策条例、墨田区地域防災計画					
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	常勤3、委託先：(株)イオタ	
事 業 内 容	・駅前滞留者対策協議会 大規模地震等の発生により、公共交通機関が運行を停止した場合、多数の帰宅困難者が発生し、特に主要駅周辺では多くの滞留者による混乱が予想される。発災直後、帰宅困難者への公的な支援には限界があり、駅周辺の関係者が連携して、混乱防止に取り組む体制が必要になる。そこで主要駅周辺の関係者と協力し「駅前滞留者対策協議会」を組織し、帰宅困難者対策を検討する。（現在は「押上駅前滞留者対策協議会」を設置している。） ・一時滞在施設の拡充 帰宅困難者が一時的に避難する場所として「一時滞在施設」を確保する。					
経 過	開始年度	平成27年度			終了予定	
	[平成26年度～]防災アプリの配信 [平成27年度]押上駅前滞留者対策協議会の設立 [平成28年度]「押上ルール～押上駅周辺の発災時における行動ルール～」(素案)を作成 [平成29年度～]押上駅前滞留者対策協議会の運営補助をコンサルタントへ委託 [令和元年度] 避難者ガイド作成 [令和3年度] (1)押上駅前滞留者協議会2回開催(7月…図上訓練、3月…振り返り(書面開催)) (2)実動訓練の実施(11月21日・現地対策本部開設・運営訓練(危機管理ベース)・避難誘導訓練) [令和4年度] (1)防災アプリの配信終了 (2)実動訓練の実施(10月7日) [令和5年度]図上訓練の実施(12月7日)					
議 会 質 問 の 状 況	[平成28年3定]押上駅以外での協議会設置について					
そ の 他 特 記 事 項						

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		2,407	1,302	2,371	798	798	798
A.決算額（令和6年度は見込み）		2,173	1,301	2,371	792	792	798
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		2,173	1,301	2,371	792	792	798
執行率（%）		90.3%	99.9%	100.0%	99.2%	99.2%	100.0%
B.人コスト		3,495	3,529	2,639	2,454	2,554	
総事業決算額（A+B）		5,668	4,830	5,010	3,246	3,346	
予算書P（令和6年度）		P 9 5 2 6		執行実績報告書P（令和5年度）		P31 27	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
役務費	郵送料	0	役務費	郵送料	0	役務費	郵送料	6
委託料	協議会運営委託料	792	委託料	協議会運営委託料	792	委託料	協議会運営委託料	792

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	協議会活動回数(年間)				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		2	令和7年度	目標	2	2	2	2
				実績	1	3	3	1
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	2	2	2	2	2	2
		実績	2	3	2	2		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	押上駅前滞留者対策協議会の平時からの連携強化や体制の見直しを目標に、年間で協議会の開催及び実動訓練(図上訓練)の実施を行っている。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	一時滞在施設の数				単 位	施設
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		40	令和7年度	目標	20	22	25	28
				実績	19	20	31	32
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	30	32	34	36	38	40
		実績	35	36	36	41		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	一時滞在施設を確保することで、駅周辺等での滞留者を抑制できるほか、区民が避難する指定避難所への帰宅困難者の流入を防ぐことができる。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	平成30年に発生した大阪府北部地震等でも、帰宅困難者の発生は課題として残った。今後30年以内に発生する確率が70%といわれる首都直下地震に備えて、引き続き帰宅困難者対策を検討していく。

課題・問題点
駅前滞留者対策協議会 ・帰宅困難者への対応について、駅前滞留者対策協議会の委員の意識を高めていく必要がある。 ・錦糸町駅、両国駅等における駅前滞留者対策協議会を設置について検討する必要がある。 一時滞在施設の確保 ・被害想定における帰宅困難者数に対する一時滞在施設数(収容可能数)が不足している。

施 策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位
事 業 名	緊急地震速報の導入					18
目 的	地震の発生を速やかに感知して、大きな揺れが到達する前に地震の強さと到達までの時間を伝える「緊急地震速報システム」を導入することで、地震に対する初動行動を迅速に行い、被害の軽減を図る。					主管課・係（担当）
						防災課防災係
						03-5608-6206
対 象 者	区要配慮者施設の施設利用者					
根 拠 法 令						
関 連 計 画						
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	常勤2、委託先:㈱ジェイコム、日本減災	
事 業 内 容	平成20年度より、区要配慮者利用施設（区立小中学校・幼稚園・保育園・高齢者施設等）に緊急地震速報（館内放送型・据え置き型）を設置している。 館内放送型においては震度4、据え置き型については震度3から発報する。 設置にあたっては、施設内に委託先のCATV線の引込み及びその他の設置に係る工事を実施し、施設の閉所の際は取り外し工事を実施する。 館内放送型の機器については24時間接続監視等を行う保守契約を締結し、館内放送型の機器に関しては覚書に伴うサービス料金を支払いにより電話による24時間障害対応を行っている。					
経 過	開始年度	平成20年度			終了予定	
	[平成20年度] 当事業を行う事業者を選定するプロポーザルを実施 区立小・中学校、幼稚園、保育園、高齢者・障害者施設等110箇所に緊急地震速報端末を設置 [平成21年～30年度] 施設の増減に伴い設置・撤去を実施 [平成30年度] 緊急地震速報導入施設のうち、サービス利用料が高額な5施設の見直し案を作成 [令和2年度] 白鬚地区5施設（高額なサービス利用料を要していた施設）について、機器の入れ替えを実施（7月）					
議 会 質 問 の 状 況						
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 年間スケジュール:①施設の新設工事時期、閉所時期に合わせ、随時工事を実施 ②四半期ごとに支払い 関連部署:要配慮者施設所管課、工事施工所管課					

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		10,932	10,950	9,154	8,680	8,976	9,313
A.決算額（令和6年度は見込み）		10,432	10,134	7,975	7,929	7,743	9,313
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		10,432	10,134	7,975	7,929	7,743	9,313
執行率（%）		95.4%	92.5%	87.1%	91.3%	86.3%	100.0%
B.人コスト		1,748	1,764	1,759	1,636	1,702	
総事業決算額（A+B）		12,180	11,898	9,734	9,565	9,445	
予算書P（令和6年度）		P94 22		執行実績報告書P（令和5年度）		P31 22	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
役務費	通信運搬料	3,882	役務費	通信運搬料	3,916	役務費	通信運搬料	4,283
委託料	端末監視・保守等	3,833	委託料	端末監視・保守等	3,827	委託料	端末監視・保守等	4,008
工事請負費	投資的工事費等	214	工事請負費	投資的工事費等	0	工事請負費	投資的工事費等	1,000

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	緊急地震速報を設置している要配慮者利用施設数				単位	箇所
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		117	37	目標	117	-	-	-
				実績	117		115	114
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	-	-	-	-	-	-
		実績	117	117	116	116		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	要配慮者は自ら避難行動をとることが難しいため、区要配慮者利用施設とする。 要配慮者が利用する区施設に設置することを目標としているため、目標値は設けない。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	避難時負傷者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		0	なし	目標	0	0	0	0
				実績	0	0	0	0
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	0	0	0	0	0	
		実績	0	0	0	0		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	本事業の活用の成果で、施設利用者の負傷者をゼロにすることが望ましい。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	緊急地震速報については、スマートフォンでの機能や、Jアラート(固定系無線経由)でも普及していることから、社会的な情勢を注視していく必要がある。

課題・問題点
緊急地震速報の区要配慮者利用施設への設置にあたり、当該施設の所管部署と適宜、連携していく必要がある。

施 策	策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位	
事 業 名	家具転倒防止器具取付け事業						19	
目 的	区民が地震発生時に自らの生命を守り、安全に避難できる空間を確保できるよう、家具転倒防止・ガラス飛散防止対策を推進する。						主管課・係（担当）	
							防災課防災係	
							03-5608-6206	
対 象 者	ア 65歳以上の高齢者（高齢者福祉課） イ 身体障害者手帳の交付を受け、その等級が、1級及び2級の者 ウ 愛の手帳（療育手帳）の交付を受け、その程度が1度から3度の者（障害者福祉課） エ 未就学児のいるひとり親（防災課）							
根 拠 法 令	・墨田区地域防災計画							
関 連 計 画	・墨田区家具転倒防止対策等促進事業実施要綱							
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先		常勤3、委託先:すみだ建築センター等		
事 業 内 容	対象世帯に家具転倒防止器具及びガラス飛散防止フィルムを取付けることで、防災機能の強化を図り、安全の確保を図る。							
経 過	開始年度	平成30年度			終了予定			
	【平成17年度】65歳以上の高齢者のみの世帯、身体障害者手帳1級または2級の方がいる世帯および愛の手帳1度から3度の方がいる対象に家具転倒防止事業を開始 【平成19年度】ガラス飛散防止事業を追加。対象世帯は同上 【平成20年度】対象を65歳以上の高齢者のみの世帯から65歳以上の高齢者のいる世帯に拡大 【平成23年度】転居、リフォーム、立替えの場合、再取付けを認める。 【平成30年度】未就学児のいるひとり親世帯を対象者に追加							
議 会 質 問 の 状 況								
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 本事業は防災課、高齢者福祉課、障害者福祉課で行われている。							

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		4,720	4,721	4,645	4,721	4,523	4,248
A.決算額（令和6年度は見込み）		1,096	642	861	553	573	4,248
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		1,096	642	861	553	573	4,248
執行率（%）		23.2%	13.6%	18.5%	11.7%	12.7%	100.0%
B.人コスト		1,748	882	880	818	851	
総事業決算額（A+B）		2,844	1,524	1,741	1,371	1,424	
予算書P（令和6年度）		P89 2（2）		執行実績報告書P（令和5年度）		P27 2(2)	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	消耗品購入	6	需用費	消耗品購入	18	需用費	消耗品購入	27
役務費	郵送料	51	役務費	郵送料	46	役務費	郵送料	51
委託料	取付委託料	496	委託料	取付委託料	509	委託料	取付委託料	4,170

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	家具・ガラス取付工事申請件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		300	令和7年度	目標	300	300	300	300
				実績	203	78	132	89
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	300	300	300	300	300	300
		実績	49	65	45	52		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	申請件数を把握することで、防災意識の啓発の効果を確認することができる。震災を契機に申請件数が増減するため、予想が難しく一定数の数値を目標とする。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	家具・ガラス取付工事取付件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		300	令和7年度	目標	300	300	300	300
				実績	168	67	101	78
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	300	300	300	300	300	300
		実績	43	59	28	36		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	取付件数を指標とすることで、安全対策が施されたか確認ができるため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	取付件数、アンケートなどから需要を見極め、事業の改善、見直しも検討していく必要がある。また、関係部署との連携を進め、取付件数の増加に繋げる。

課題・問題点
・住宅事情における取付け器具品目の精査について 取付け器具は壁等に直接取付け工事を行うものが多いので、賃貸住宅では難色を示す場合が多い。また、日中不在の世帯では、取付け工事の日程調整に時間を要する場合がある。このような事情から、工事不要の取付け器具等があるか品目を精査する必要がある。

施 策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位
事 業 名	防災フェア事務					20
目 的	区民が正しい防災知識を身につけているとともに、高い防災意識をもっている。					主管課・係（担当）
						防災課防災係
						03-5608-6206
対 象 者	区民					
根 拠 法 令						
関 連 計 画						
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤3	
事 業 内 容	関東大震災から60年にあたる昭和58年9月1日に第一回防災フェアを実施し、以降毎年継続して実施している。起震車運行、パネル展示、資器材展示、各種相談等、区民に対して啓発を行う。					
経 過	開始年度	昭和58年		終了予定		
	[平成28年度] 横網町公園での起震車運行、東京ソラマチ内スペース634での啓発(1日のみ) [平成29年度] 横網町公園での起震車運行、すみだリバーサイドホールでの啓発(1日のみ) [平成30年度～令和元年度] 横網町公園での起震車運行等、区役所アトリウムでのパネル展示(5日間) [令和2年度] 区役所アトリウムでのパネル展示(5日間) [令和3～4年度] ひきふね図書館でのパネル展示(5日間)※区役所アトリウムがワクチン接種会場使用のため [令和5年度]関東大震災100年事業として、生涯学習センターにて防災シンポジウムを実施 区役所アトリウム及びギャラリー、生涯学習センターにてパネル展示					
議 会 質 問 の 状 況						
そ の 他 特 記 事 項						

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		192	194	213	90	390	161
A.決算額（令和6年度は見込み）		108	56	203	26	285	161
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		108	56	203	26	285	161
執行率（%）		56.3%	28.9%	95.3%	28.9%	73.1%	100.0%
B.人コスト		2,621	2,647	1,759	1,636	4,256	
総事業決算額（A+B）		2,729	2,703	1,962	1,662	4,541	
予算書P（令和6年度）		P92 15(2)		執行実績報告書P（令和5年度）		P29 15(2)	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	消耗品費	0	報償費	講師謝礼	80	役務費	郵送料	7
役務費	郵送料	7	役務費	郵送料	7	委託料	パネル作成委託	154
委託料	パネル作成委託	19	委託料	パネル作成委託	137			
			使用料及び賃借料	会場使用料	62			

事業の成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	参加依頼団体数				単 位	団体
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		28	令和7年度	目標	25	25	25	25
				実績	24	25	25	25
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	25	28	28	28	28	28
		実績	25	1	1	27		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	参加依頼団体数を増加させることは、来場者に幅広い防災対策を知ってもらう機会となるため、これまで出展のなかった団体等へも積極的に依頼していく必要がある。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	起震車の体験者数（参加人数）				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		10,000	令和7年度	目標	8,000	8,000	8,000	8,000
				実績	10,893	4,183	326	266
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	8,000	9,000	9,000	9,000	9,000	10,000
		実績	-	-	-	121		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	参加人数が多いほど、防災思想の啓発を行う機会につながるため。なお、平成30年度以降の実績については、起震車のみの利用人数を記載している。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	実施場所・実施方法を変更し実施しているが、今後も防災思想の普及啓発を効果的に行う場・機会の設定について、他イベントとの連携等更なる検討が必要である。

課題・問題点
総合防災訓練の際にも防災フェア類似事業があり、参加防災関係機関の負担軽減、事業の効率化等の観点から事業統合等の検討をしていく必要がある。 また、効果的・効率的に事業を行い、より広くより多くの人に取り組みを周知していく必要がある。

施 策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位
事 業 名	公共用消火器等の維持管理					21
目 的	震災時及び平常火災の発生時において、一般区民による初期消火の効果を期待し、区民の生命・身体・財産の安全と町会や区民の自発的かつ積極的な防災活動の促進を図る。					主管課・係（担当）
						防災課防災係
						03-5608-6206
対 象 者	消火器を保有する町会・自治会、区民					
根 拠 法 令 関 連 計 画	墨田区公共消火器設置要綱、消火器薬剤の詰替え等に関する要綱、東京都震災対策条例					
実 施 基 準	法令基準	実施方法	全部委託	人員体制・委託先	常勤4・(株)ススム防災	
事 業 内 容	墨田区公共消火器設置要綱に基づき、区内各所に設置している消火器の維持管理を行う。また、消火器薬剤の詰め替え等に関する要綱に基づき、火災で使用した消火器の詰替え又は買替えの補償を行う。					
経 過	開始年度	昭和48年		終了予定		
	[平成8年度] 区内主要道路の歩道上に消火器の設置開始 [平成23年度～25年度]「地震に関する地域危険度測定調査(第6回)」の総合危険度ランクの結果を考慮し、公共用消火器設置計画を行い、合計280本の消火器を増配備 [平成25～26年度]「地震に関する地域危険度測定調査(第6回)」の火災危険度ランクに基づき、全町会・自治会を対象に、2か年で消火栓を活用したスタンドパイプセットの配布、以降新設町会・自治会に配布 [通年]区設置消火器の保守点検を実施、建物建て替え等に伴う、消火器の撤去や移設、新規設置対応 火災により使用した消火器の詰替え、交換の実施					
議 会 質 問 の 状 況						
そ の 他 特 記 事 項						

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		5,700	7,355	9,900	10,376	9,328	7,399
A.決算額（令和6年度は見込み）		5,002	7,012	8,128	6,883	7,527	7,399
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		5,002	7,012	8,128	6,883	7,527	7,399
執行率（%）		87.8%	95.3%	82.1%	66.3%	80.7%	100.0%
B.人コスト		1,748	1,764	2,639	2,454	2,554	
総事業決算額（A+B）		6,750	8,776	10,767	9,337	10,081	
予算書P（令和6年度）		P91 10		執行実績報告書P（令和5年度）		P29 10	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	消火器購入等	4,418	需用費	消火器購入等	5,235	需用費	消火器購入等	4,632
役務費	リサイクルシール購入	252	役務費	リサイクルシール購入	207	役務費	リサイクルシール購入	177
委託料	保守点検	2,205	委託料	保守点検	2,074	委託料	保守点検	2,317
工事請負費	設置、修繕工事	8	工事請負費	設置、修繕工事	12	工事請負費	設置、修繕工事	273

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	公共用消火器本数				単 位	本
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		2,730	R7	目標	2730	2730	2730	2730
				実績	2652	2614	2527	2462
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	2730	2730	2730	2730	2730	2730
		実績	2411	2383	2344	2388		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区内全域に消火器を配備し、災害時の火災又は通常の火災時に、迅速な初期消火を実現するため。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	区設置消火器の使用件数(目標値なし)				単 位	本
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		-	-	目標	-	-	-	-
				実績	5	9	2	13
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	-	-	-	-	-	-
		実績	7	2	3	4		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	災害時の区民による初期消火手段として有効であり、生命・財産を守る観点から必要性が高いため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	消火器の設置は初期消火体制の構築に不可欠であるが、共同住宅の増加に伴い、区が設置する消火器の本数は減少傾向にある。区の消火器だけでなく町会や共同住宅等が設置する消火器を考慮し、迅速な初期消火に繋げる。また、初期消火の状況まで至らないよう早期発見も検討していく必要がある。

課題・問題点
地域配備消火器及び主要道路消火器ともに設置場所が屋外であり、風雨等にさらされているため、消火器本体、格納箱に腐食、破損の激しいものがみられる。現在までに、使用に耐えないものについて交換等を実施してきたが、今後も計画的に取替え等を実施し、事故が生じないよう安全管理に努めることとする。

施 策	策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位			
事 業 名	防災貯水槽の設置及び維持管理、飲料水対策						22			
目 的	災害時の生活用水対策として防災貯水槽の設置を推進し、その維持管理として防災貯水槽の水質検査等を実施する。						主管課・係（担当）			
							防災課防災係			
							03-5608-6206			
対 象 者	災害時に生活用水確保のために防災貯水槽を利用する区民等									
根 拠 法 令	墨田区地域防災計画									
関 連 計 画										
実 施 基 準	区独自基準		実施方法		一部委託		人員体制・委託先		常勤3、委託先:㈱アクアプロダクト	
事 業 内 容	墨田区地域防災計画に基づき、地震等の災害時における上水道の供給不能に備え、区立小・中学校のプール及び公園等に設置されている防災貯水槽の水を原水として生活用水の供給を図るため、区内各所にろ過機を配置するとともに、保守点検を実施し、適正な維持管理を図る。									
経 過	開始年度		平成元年度				終了予定			
	防災貯水槽新規設置(平成元年度以降) [平成元年度] 100トン 1基 [平成2年度] 60トン 1基 [平成3年度] 100トン 1基 [平成5年度] 100トン 1基 80トン 1基 [平成6年度] 100トン 1基 [平成10年度] 100トン 1基 [平成12年度] 63トン 1基 [平成26年度] 40トン 1基 現行維持管理 ・20トン1基、40トン26基、50トン13基、60トン1基、63トン1基、80トン1基、100トン14基									
議 会 質 問 の 状 況										
そ の 他 特 記 事 項										

予算・決算額推移(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額(事業費)		2,064	2,285	2,514	2,119	2,243	1,949
A.決算額(令和6年度は見込み)		1,771	1,661	2,144	1,814	2,146	1,949
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		1,771	1,661	2,144	1,814	2,146	1,949
執行率(%)		85.8%	72.7%	85.3%	85.6%	95.7%	100.0%
B.人コスト		1,748	4,417	2,639	2,454	2,554	
総事業決算額(A+B)		3,519	6,078	4,783	4,268	4,700	
予算書P(令和6年度)		P91 12		執行実績報告書P(令和5年度)		P29 12	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	水道料金・消耗品等	80	需用費	水道料金・消耗品等	337	需用費	水道料金・消耗品等	129
役務費	ろ過機格納庫処理	0	役務費	ろ過機格納庫処理	0	委託費	ろ過機保守点検	1,820
委託費	ろ過機保守点検	1,734	委託費	ろ過機保守点検	1,808			

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	ろ過機の配備・保守点検				単 位	台(回)
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		79	R7	目標	79	79	79	79
				実績	79	73	73	72
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	79	79	79	79	79	79
		実績	72	72	72	72		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	防災計画に必要な場所にろ過機を配備し、かつ、ろ過機が正常に稼働するように、年に1度保守点検している。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	防災貯水槽における確保水量				単 位	t
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		3,312	R7	目標	3,312	3,312	3,312	3,312
				実績	3,312	3,313	3,313	3,313
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	3,312	3,312	3,312	3,312	3,312	3,312
		実績	3,313	3,313	3,313	3,262		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	災害時に確保しなければならない水量のうち、防災貯水槽で確保している水量。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	ペットボトル飲料水の備蓄や新たなろ過装置の開発も進んでおり、効率性・経済性等の検証が必要と考えられるため。しかし、能登半島地震を踏まえて、考え方を整理する必要がある。

課題・問題点
本事業は、災害時の飲料水確保を目的とした事業であったが、ペットボトル飲料等の普及により、現在は災害時の生活用水確保を目的としたものになっている。また、防災貯水槽は設置後50年を経過するものが発生しており、事業を継続する場合は維持管理や補修の面で新たな予算が必要になってくる可能性がある。今後は、最低限の水質管理、水量点検を継続し、公園整備や故障等の機会をとらえ、撤去していく方針としていく。

施 策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位
事 業 名	自動車維持事務					23
目 的	墨田区地域防災基本条例、地域防災計画に基づき、起震車による人工地震体験を通じて、区民の防災意識の高揚及び地震発生時における対応力の向上を図る。					主管課・係（担当）
						防災課防災係
						03-5608-6206
対 象 者	町会・自治会、学校、保育園、幼稚園、区内企業、墨田区主催イベント等					
根 拠 法 令 関 連 計 画	墨田区起震車運行要領					
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	常勤3・委託先：(株)サンライン	
事 業 内 容	町会・自治会、学校、保育園、幼稚園、区内企業等の依頼から地震体験車を現地に派遣し、実際に人工地震体験をしてもらう。					
経 過	開始年度	平成20年度			終了予定	
	【平成20年度～】起震車をリース契約により導入 【平成25年度】再リース契約締結 【平成31年度】再び1年のリース契約を行い、起振装置部分の改修 【令和2年度～】改修後の起震車を1年の再リースにより使用					
議 会 質 問 の 状 況						
そ の 他 特 記 事 項						

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		4,853	4,661	4,658	4,657	4,657	4,657
A.決算額（令和6年度は見込み）		4,384	3,496	3,555	4,207	3,964	4,657
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		4,384	3,496	3,555	4,207	3,964	4,657
執行率（%）		90.3%	75.0%	76.3%	90.3%	85.1%	100.0%
B.人コスト		1,748	1,764	1,759	1,636	851	
総事業決算額（A+B）		6,132	5,260	5,314	5,843	4,815	
予算書P（令和6年度）		P90 7		執行実績報告書P（令和5年度）		P28 7	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	軽油	40	需用費	軽油	32	需用費	軽油	60
役務費	運行業務	897	役務費	運行業務	662	役務費	運行業務	1,327
使用料及び賃借料	リース料	3,270	使用料及び賃借料	リース料	3,270	使用料及び賃借料	リース料	3,270

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	起震車運行回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		90	R7	目標	75	75	75	75
				実績	72	62	53	43
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	80	80	80	80	80	80
		実績	14	17	47	42		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	起震車の運行回数が増え、区民が地震を疑似体験することで、平常時からの備えに対して考える機会を生み出すこととなる。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	起震車体験人数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		7,600	R7	目標	7,125	7,125	7,125	7,125
				実績	6,779	5,913	5,063	4,866
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	7,125	7,600	7,600	7,600	7,600	7,600
		実績	666	1,289	4,368	2,684		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	起震車を体験することにより、地震時の身の安全の確保方法や、家具の転倒防止等を考える機会となり、区民等が平常時から防災意識を高めることにつながるため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	区民が地震の疑似体験をすることにより、自助・共助による防災意識向上の効果を高めることができると考えるが、運行基準、対応人員の割り当て等を見直すことにより、効果的な実施方法を検討する。令和5年度に関しては、全体の運行回数が減少したことに伴い、起震車体験人数も減少した。

課題・問題点
区民ニーズもあり、区職員が直接区民と接し、防災対策についての情報提供・収集ができる場となっている。一方で、本所防災館で起震車と同様の体験が可能であり、担当職員の休日出勤等、ワークライフバランスの観点からも懸念がある。 また、起震車の老朽化が進んでおりバッテリー不具合等の問題も生じているため、安全面の懸念がある。

施 策	策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位	
事 業 名	災害備蓄倉庫維持						24	
目 的	各種災害に備え、平時から、災害救助物資等を適切に保管するため、倉庫の維持管理を図る。						主管課・係（担当）	
							防災課防災係	
							03-5608-6206	
対 象 者	災害時における罹災者							
根 拠 法 令 関 連 計 画	災害対策基本法、墨田区地域防災計画							
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先		常勤5、委託先:東京不動産管理(株)		
事 業 内 容	災害対策基本法、墨田区地域防災計画、首都直下地震による東京の被害想定等に基づき、備蓄物資の配備、更新及び維持管理を行う。また、施設の開閉館等に合わせて、備蓄物資の移設等を行っている。							
経 過	開始年度	平成28年度			終了予定			
	清掃実績:【平成14年度】本所・白鬚東 【平成15年度】錦糸 【平成16年度】八広・京島 【平成17年度】本所・東向島 【平成18年度】白鬚東・錦糸 【平成19年度】八広・京島 【平成20年度】本所・東向島 【平成21年度】白鬚東・錦糸 【平成22年度】八広・東墨田 【平成23年度】京島・本所 【平成24年度】東向島・白鬚東 【平成25年度】東墨田・錦糸 【平成26年度】八広・業平 【平成27年度】京島・本所 【平成28年度】東向島・白鬚東 【平成29年度】実施なし 【平成30年度】実施なし 【令和元年度】実施なし 【令和2年度】東向島（職員で対応）【令和3年度】東向島 【令和4年度】実施なし 【令和5年度】スカイツリー備蓄倉庫							
議 会 質 問 の 状 況								
そ の 他 特 記 事 項								

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		4,235	725	2,716	1,331	1,444	2,144
A.決算額（令和6年度は見込み）		4,229	117	1,636	957	1,430	2,144
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		4,229	117	1,636	957	1,430	2,144
執行率（%）		99.9%	16.1%	60.2%	71.9%	99.0%	100.0%
B.人コスト		2,621	888	2,639	2,454	4,256	
総事業決算額（A+B）		6,850	1,005	4,275	3,411	5,686	
予算書P（令和6年度）		p90 6		執行実績報告書P（令和5年度）		P28 6	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	消耗品費等	0	需用費	消耗品費等	0	需用費	消耗品費等	3
役務費	備蓄物資運搬	402	役務費	備蓄物資運搬	864	役務費	備蓄物資運搬	1,263
委託料	防災倉庫管理	19	委託料	防災倉庫管理	19	委託料	防災倉庫管理	20
工事請負費	倉庫内ラック工事	536	工事請負費	倉庫内ラック工事	547	工事請負費	倉庫内ラック工事	858

事業成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	食糧品の備蓄数				単位	食
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		369,030	R7	目標	369,030	369,030	369,030	369,030
				実績	541,317	515,181	463,119	425,253
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	369,030	369,030	369,030	369,030	369,030	369,030
		実績	407,194	369,030	369,030	369,030		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	備蓄品の中でも、区民の生命に関わる食糧品の備蓄数が指標としては最も適切である。食糧品については、区の被害想定における避難所生活者数の1日分(=3食、ただし粉ミルクは3日分)及び帰宅困難者の1食分を区が備蓄することとしているため、目標値は上記のとおりである。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	備蓄倉庫数				単位	箇所
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		65	R7	目標	65	65	65	65
				実績	60	61	61	60
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	65	65	65	65	65	65
		実績	63	67	67	67		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	災害時の倉庫内備蓄品の活用において、より多くの個所に倉庫を分散することでリスクを分散することができる。また、広いスペースを確保することで搬出入の為の通路を広く確保することができ迅速な対応につながる。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	大規模災害時に止むを得ず避難所生活を強いられることになった区民のための備蓄倉庫の維持及び確保は自治体の責務であるため、引き続き継続する。備蓄物資を適切に管理するため、備蓄倉庫を増やしていく必要がある。

課題・問題点
備蓄スペースの確保、備蓄品目の見直し、物資輸送拠点となる倉庫の検討等、引き続き進めていく必要がある。

施 策	策	412	地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める				部内優先順位	
事 業 名	防災被服補充						25	
目 的	災害時における活動態勢の充実、平常時における防災意識の高揚						主管課・係（担当）	
							防災課防災係	
							03-5608-6206	
対 象 者	災害対策業務に従事する墨田区職員							
根 拠 法 令 関 連 計 画	墨田区災害対策用防災被服貸与要綱							
実 施 基 準	法令基準	実施方法	全部委託	人員体制・委託先	委託業者（未契約）			
事 業 内 容	職員の防災活動を支援するため、災害対策業務に従事する全職員を対象に防災服を配布しており、毎年度、新規職員・昇任者・都区交流異動者等への配備を行っている。 また、退職職員からの防災服の回収及びクリーニングによる再利用、廃棄処分を実施している。							
経 過	開始年度	平成4年度			終了予定			
	【新規入庁職員への防災被服配備数】 [平成27年度] 防災服 62着 外編み上げ靴等一式 [平成28年度] 防災服 72着 外編み上げ靴等一式 [平成29年度] 防災服 90着 外編み上げ靴等一式 [平成30年度] 防災服 85着 外編み上げ靴等一式 [令和元年度] 防災服 75着 外編み上げ靴等一式 [令和2年度] 防災服 69着 外編み上げ靴等一式 [令和3年度] 防災服 69着 外編み上げ靴等一式 [令和4年度] 防災服 78着 外編み上げ靴等一式 [令和5年度] 防災服 105着 外編み上げ靴等一式							
議 会 質 問 の 状 況								
そ の 他 特 記 事 項								

予算・決算額推移(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額(事業費)		2,067	2,670	2,408	2,304	2,365	3,389
A.決算額(令和6年度は見込み)		1,539	2,559	2,331	2,222	2,000	3,389
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		1,539	2,559	2,331	2,222	2,000	3,389
執行率(%)		74.5%	95.8%	96.8%	96.4%	84.6%	100.0%
B.人コスト		2,621	3,529	2,639	2,454	2,554	
総事業決算額(A+B)		4,160	6,088	4,970	4,676	4,554	
予算書P(令和6年度)		P89 11		執行実績報告書P(令和5年度)		P29 11	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	防災服等購入	2,205	需用費	防災服等購入	1,981	需用費	防災服等購入	3,301
役務費	廃棄運搬等	17	役務費	廃棄運搬等	19	役務費	廃棄運搬等	22
委託料	廃棄処理	0	委託料	廃棄処理	0	委託料	廃棄処理	66

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	新規採用職員用防災服補充				単 位	着
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		-	-	目標	-	-	-	-
				実績	72	90	85	75
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	-	-	-	-	-	-
		実績	69	66	78	105		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	新規採用職員を含め、全職員へ防災服の配備を行っており、災害時に区職員であることが容易に判別できるようになるため、災害活動時における防災服の役割は大きいため。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	防災服着用回数(目標値なし)				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		-	-	目標	-	-	-	-
				実績	14	14	14	14
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	-	-	-	-	-	-
		実績	13	14	13	12		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	毎月1日の防災の日(1月のみ17日)、及び総合防災訓練、職員災害対応訓練で防災服を着用することで、職員の防災意識の向上、来庁した区民への防災意識の啓発を図ることができるため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	防災被服の安全性と機能性などについては、検討の余地があるが、発災時における区職員を認識する手段として、防災服は重要な役割を果たすため、今後も必要と思われる。

課題・問題点
技術の進歩により、現在使用している防災服よりも運動性や通気性等機能面で優れたものがあり、随時見直しが必要である。